

北海道大学総合博物館年報  
(令和4年度)

目 次

I. 沿革	3
II. 組織	3
A 総合博物館教職員	3
B 資料部研究員	4
C 各種委員会	7
III. 研究	11
A 学術標本の研究活用	11
B 教員の研究活動	33
IV. 教育	56
A 全学教育・大学院共通授業、学芸員関連科目と博物館実習	56
B ミュージウムマイスター認定コース	56
C パラタクソノミスト養成講座	57
D 各教員が指導する院生や学生	58
V. 社会貢献	60
A 展示	60
B セミナー	66
C 公開シンポジウム	70
D ボランティア活動	71
E 自治体や他機関との協定締結	72

F その他.....	72
VI. 国際的な活動 .....	74
A 各種協定締結.....	74
B 客員教授・外国人研究員 .....	74
VII. 広報 博物館ニュース、HP、FB、新聞報道記録など .....	75
VIII. 令和4年度予算状況 .....	84
IX. 令和4年度の主な出来事 .....	85
X. 総合博物館の第4期（令和4～9年度）中期目標 .....	86

## I. 沿革

北海道大学の前身、札幌農学校は1876(明治9)年に開校した。その翌年にはクラーク博士が『札幌農学校第1年報』において、将来の自然史博物館の基礎が着々と出来つつあることを述べている。博士が去って7年後の1884(明治17)年に札幌農学校は開拓使より植物園とともに園内の博物館を譲り受け、ここに附属博物館が実現した。札幌農学校開校以来143年の研究成果として、現在400万点を越す学術標本が学内に所蔵され、その中には1万3千点以上のタイプ標本が含まれている。これら貴重な学術標本を良好な状態で集約管理し学内外に情報を発信するために、1966(昭和41)年から総合博物館設置が検討されてきた。理学部本館建物を総合博物館として再利用し、延べ約9,000㎡の総合博物館にする構想がまとまり、1999(平成11)年度、文部省より設置が認められた。2001(平成13)年には、本学創基125周年次事業の一環として、第1期工事分3,000㎡の改修が行われ公開展示が開始された。2014(平成26)年には、第2、第3期6,000㎡の改修・耐震工事に着手し、2016(平成28)年に展示室・収蔵庫・研究教育関連スペースを完備してリニューアルオープンした。総合博物館は、北大の教育・研究の成果を広く一般に公開する場として、また、貴重な学術標本を整理・保管し教育・研究に活用する場として、その役割はますます大きなものとなっている。なお、2007(平成19)年には、水産科学研究所の水産資料館が、水産科学館として総合博物館の分館となった。

## II. 組織

### A 総合博物館教職員

館長	小澤丈夫
水産科学館館長	今村 央
研究部長	小林快次
副館長	大原昌宏、湯浅万紀子、小林快次、江田真毅
資料部長	坪田敏男
資料基礎研究系	学術標本の基礎研究や学際研究での利用並びに教育の利用に供するための業務
教授	大原昌宏(昆虫体系学)
准教授	阿部剛史(海藻分類学)
助教	田城文人(魚類分類学)
助教	首藤光太郎(植物体系学)
資料開発研究系	学術標本を教育・研究の素材として有効活用するための開発研究、並びに標本修復のための業務
教授	湯浅万紀子(博物館教育学)

教授	小林快次（古生物学）
教授	江田真毅（動物考古学）
助教	北野一平（岩石鉱物学）
博物館教育・メディア研究系	学術標本から得られた学術情報及び研究成果の公開・展示を基盤とした博物館教育の進展を図るための業務
(兼)教授	湯浅万紀子（博物館教育学）
研究支援推進員	渡邊洋子
	市來紗都子
事務部（※博物館担当）	
事務部長	金川眞行
課長補佐(総務担当)	大江幸人
課長補佐※	三浦征則
課長補佐(学務担当)	西村直樹
課長補佐(財務担当)	三浦征則
係長※	井上 猛
主任※	山田久恵
事務補佐員※	木谷 恵
技術補佐員※	柴野伸幸
技術補助員（水産科学館）※	伊藤路子

## B 資料部研究員

資料部長 坪田敏男

研究員氏名	所属	職名	博物館担当教員
小亀 一弘	大学院理学研究院	教授	阿部剛史
堀口 健雄	大学院理学研究院	教授	阿部剛史
四ツ倉 典滋	北方生物圏フィールド科学センター	准教授	阿部剛史
天野 哲也	本学退職教員（N104A）		江田真毅
泉 洋江	総合博物館（S206）		江田真毅
大館 智志	低温科学研究所	助教	江田真毅

小野 裕子	総合博物館 (N104A)		江田真毅
片倉 賢	本学退職教員	名誉教授	江田真毅
加藤 博文	アイヌ・先住民研究センター	教授	江田真毅
國木田 大	大学院文学研究院	准教授	江田真毅
高倉 純	埋蔵文化財調査センター	助教	江田真毅
増田 隆一	大学院理学研究院	教授	江田真毅
守屋 豊人	埋蔵文化財調査センター	特任助教	江田真毅
秋元 信一	本学退職職員 (S205B)	名誉教授	大原昌宏
池上 重康	大学院工学研究院	助教	大原昌宏
稲荷 尚記	総合博物館 (S204B)		大原昌宏
柁原 宏	大学院理学研究院	教授	大原昌宏
菊田 融	総合博物館 (S206)		大原昌宏
木村 正人	本学退職教員 (S205B)	名誉教授	大原昌宏
佐々木 均	総合博物館 (S205B)		大原昌宏
下村 政嗣	千歳科学技術大学応用化学生物学科	教授	大原昌宏
高久 元	北海道教育大学	教授	大原昌宏
戸田 正憲	本学退職教員 (S204B)	名誉教授	大原昌宏
三谷 朋弘	大学院農学研究院	准教授	大原昌宏
藤田 正一	本学退職教員	名誉教授	大原昌宏
山口 諒	大学院先端生命科学研究院	助教	大原昌宏
山中 草叶	書家		大原昌宏
山本 周平	総合博物館 日本学術振興会特別研究員 SPD		大原昌宏
吉澤 和徳	大学院農学研究院	准教授	大原昌宏
渡部 英昭	総合博物館 (S205B)		大原昌宏
未富 弘	札幌学院大学経営学部	教授	小澤丈夫
石川 満寿夫	総合博物館(S206)		小林快次
越前谷 宏紀	総合博物館 (S206)		小林快次
小野 修司	本学退職職員		小林快次
久保田 克博	兵庫県立人と自然の博物館		小林快次
沢田 健	大学院理学研究院	教授	小林快次
新村 龍也	足寄動物化石博物館		小林快次
竹下 徹	本学退職職員	名誉教授	小林快次

竹田 裕介	日本学術振興会特別研究員 P D (東京大学)		小林快次
田中 康平	筑波大学	助教	小林快次
田中 嘉寛	大阪市立自然史博物館 地史研究室		小林快次
中川 光弘	大学院理学研究院	特任教授	小林快次
西村 智弘	むかわ町穂別博物館		小林快次
吉田 純輝	福島県立博物館		小林快次
東 隆行	北方生物圏フィールド科学センター	助教	首藤光太郎
大原 雅	大学院地球環境科学研究院	教授	首藤光太郎
乙黒 聡子	大学院薬学研究院	技術専門職員	首藤光太郎
小林 孝人	総合博物館 (S206)		首藤光太郎
近藤 誠司	本学退職教員	名誉教授	首藤光太郎
佐藤 謙	総合博物館 (S205B)		首藤光太郎
佐藤 広行	(一社)九州オープンユニバーシティ 博士研究員		首藤光太郎
佐野 雄三	大学院農学研究院	教授	首藤光太郎
高橋 英樹	本学退職教員	名誉教授	首藤光太郎
春木 雅寛	本学退職教員		首藤光太郎
富士田 裕子	北方生物圏フィールド科学センター植物園	教授	首藤光太郎
宮本 敏澄	大学院農学研究院	講師	首藤光太郎
持田 誠	浦幌町立博物館		首藤光太郎
谷亀 高広	瑞穂町郷土資料館けやき館		首藤光太郎
河合 俊郎	大学院水産科学研究院	准教授	田城文人
川西 亮太	北海道教育大学釧路校	准教授	田城文人
五嶋 聖治	本学退職教員	名誉教授	田城文人
篠原 現人	国立科学博物館動物研究部		田城文人
矢部 衛	本学退職教員	名誉教授	田城文人
山下 俊介	大学院水産科学研究院	特任助教	田城文人
佐々木 亨	大学院文学研究科	教授	湯浅万紀子
杉山 滋郎	本学退職教員 (S205B)	名誉教授	湯浅万紀子

## C 各種委員会

・運営委員会

開催日

第1回：令和4年7月28日（オンライン開催）、第2回：令和4年3月3日（オンライン開催）

委員会構成員：委員長 小澤丈夫

部局名	職名	氏名
工学研究院	館長	小澤 丈夫
理事（附属図書館）	副学長（館長）	山本 文彦
文学研究院	教授	佐々木 亨
法学研究科	教授	池田 清治
情報科学研究院	教授	北 裕幸
農学研究院	教授	井上 京
電子科学研究所	教授	石橋 晃
薬学研究院	教授	南 雅文
保健科学研究院	教授	伊達 広行
総合博物館	教授（研究部長）	小林 快次
獣医学研究院	教授（資料部長）	坪田 敏男
水産科学研究院	教授（水産科学館長）	今村 央
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	教授	湯浅万紀子
総合博物館	教授	江田 真毅
総合博物館	准教授	阿部 剛史

・展示専門委員会

開催日：令和5年3月27日（メールによる持ち回り）

委員会構成員：委員長 佐々木亨

部局名	職名	氏名
文学研究院	教授	佐々木 亨
総合博物館	教授（研究部長）	小林 快次
獣医学研究院	教授（資料部長）	坪田 敏男
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	教授	湯浅万紀子
総合博物館	教授	江田 真毅
総合博物館	准教授	阿部 剛史
総合博物館	助教	首藤 光太郎
総合博物館	助教	田城 文人
総合博物館	助教	北野 一平
メディア・コミュニケーション研究院	准教授	上田 裕文

・学術標本検討専門委員会

開催日：令和5年3月27日（メールによる持ち回り）

委員会構成員：委員長 坪田敏男

部局名	職名	氏名
獣医学研究院	教授（資料部長）	坪田 敏男
総合博物館	教授（研究部長）	小林 快次
総合博物館	教授	大原 昌宏
総合博物館	教授	湯浅万紀子
総合博物館	教授	江田 真毅
総合博物館	准教授	阿部 剛史
総合博物館	助教	田城 文人
総合博物館	助教	首藤 光太郎
総合博物館	助教	北野 一平
地球環境科学研究院	教授	大原 雅

農学研究院	准教授	吉澤 和徳
理学研究院	准教授	柁原 宏
医学研究院	助 手	中村 秀樹
水産科学研究院	教 授	綿貫 豊
文学研究院	准教授	高瀬 克範

・第2農場等の一般公開に関する専門委員会

開催日：令和5年3月14日（メールによる持ち回り）

委員会構成員：委員長 岩淵和則

部局名	職 名	氏 名
農学研究院	教 授	岩淵 和則
総合博物館	教授（研究部長）	小林 快次
獣医学研究院	教授（資料部長）	坪田 敏男
農学研究院	准教授	石井 一暢
工学研究院	教 授	小澤 丈夫
北方生物圏フィールド科学 センター	准教授	三谷 朋弘
総合博物館	助 教	首藤光太郎
総合博物館	資料部研究員	近藤 誠司
理学・生命科学事務部	事務部長	金川 眞行
施設部	環境配慮促進課長	成田 芳道

・水産科学館専門委員会

開催日：開催なし

委員会構成員：委員長 今村 央

部局名	職 名	氏 名
水産科学研究院	教授（水産科学館長）	今村 央
総合博物館	教授（研究部長）	小林 快次
総合博物館	助 教	田城 文人
水産科学研究院	教 授	綿貫 豊
水産科学研究院	助 教	高橋 勇樹

水産科学研究院	准教授	山口 篤
水産科学研究院	准教授	平譚 享
水産科学研究院	教授	水田 浩之
水産科学研究院	准教授	東藤 孝
水産科学研究院	教授	岸村 栄毅
水産科学研究院	准教授	藤本 貴史

・学内各種委員会対応

全学教育科目責任者	湯浅万紀子
教務委員会学芸員養成課程専門委員会	研究部長（小林快次）
フィールドセンター運営委員会	大原昌宏
埋蔵文化財センター運営委員会	江田真毅
生態環境マネジメント WG	大原昌宏
歴史的資産活用 TF	湯浅万紀子
安全管理委員	阿部剛史
全学広報担当者会議	研究部長（小林快次）
キャンバスマネジメント専門委員会	大原昌宏

### III. 研究

#### A 学術標本の研究活用

##### <陸上植物標本利用記録> (担当 首藤光太郎 助教)

陸上植物標本庫 (SAPS) には、明治時代から北海道・千島・樺太を中心に採集された植物標本がおよそ 30 万点収蔵されている。国内でも有数の歴史・点数をもつ標本庫であり、道内に生育する植物を対象とした研究・教育活動や事業に日常的に利用されている。今年度は、25 名により 36 回の利用があった。コロナウイルス感染拡大の影響を受けた一昨年度・昨年度に比べ、3 倍近い利用回数となった。借受は展示目的が 3 件、研究目的が 3 件あり、美唄市郷土史料館、釧路市立博物館、札幌市博物館活動センターの企画展で展示された。SAPS での標本調査に基づく報文は、27 報出版された。

##### ・目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他	総数
696	0	32	3	731

この数字は、利用申請書に記入されたものに基づいている。属や科といった高次分類群を 1 点と計数している場合があり、実際の標本点数を反映していない場合がある。また、申請の時点で調査対象分類群の収蔵点数が不明であり、未記入で申請・調査を行うことも多い。実際の利用点数はこの数字よりも遥かに大きいと思われるが、実態は不明である。

・標本庫利用 (標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書が提出されたもののみで、実際の利用者の一部である)

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.14	古田くるみ	美唄市郷土史料館	美唄市産標本	展示	32
4.14	中村剛	北海道大学北方圏フィールド科学センター植物園	イヌナズナ属, オモダカ属	研究	
4.14	岩佐真彦	北海道大学北方圏フィールド科学センター植物園/大学院環境科学院	ハルニレ	研究	3
4.14	山口裕志	北海道大学北方圏フィールド科学センター植物園/農学部	アキカラマツ	研究	50
4.14	高橋尚敏	北海道大学北方圏フィールド科学センター植物園/大学院環境科学院	イヌナズナ属	研究	50
5.19	小玉愛子	北方山草会	ジュンサイ、ヒシ属	研究	
6.6	山崎真実	札幌市博物館活動センター	札幌市内産標本、水生植物	研究	500
6.6~6.8	加藤ゆき恵	釧路市立博物館	釧路・根室の湿原産植物	展示	
6.20	Bhjrsaikaan Demiakhorloo	北海道大学大学院環境科学院	カバノキ属	研究	
7.1	吉村くるみ	美唄市郷土史料館	美唄市産標本	展示	

7.6~7.8	山口裕志	北海道大学北方圏フィールド科学センター植物園/農学部	カラマツソウ属	研究	
7.7	相葉慎一郎	北海道大学大学院環境科学院	カバノキ属	研究	
7.7	Bhjhrsakaan Demiakhorloo	北海道大学大学院環境科学院	カバノキ属	研究	
7.19	栃原行人	国立科学博物館	ヤチヤナギ	研究	14
8.23	西川ことね	千葉大学理学部生物学科進化系統学研究室	シダ植物、イワガネゼンマイ属	研究	1
9.8	五十嵐博	北海道野生植物研究所	セリ科ホタルサイコ属など	研究	
9.16	山崎真実	札幌市博物館活動センター	札幌市内産標本、水生植物	研究	
9.27	池谷祐幸	岡山理科大学生物地球学部	ナナカマド属	研究	
10.5	栃原行人	国立科学博物館植物研究部	ヤチヤナギ	研究	14
10.6	山口裕志	北海道大学北方圏フィールド科学センター植物園/農学部	カラマツソウ属	研究	
10.13~10.14	星野洋一郎	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	クロミノウグイスカグラ	研究	
10.17	山下由美	福島大学共生システム理工学研究科	ラン科	研究	
10.20	早川貴将	北海道大学大学院環境科学院	カワユエンレイソウ	研究	
11.3	兼子伸吾	福島大学理工学群共生システム理工学類	フクジュソウ属	研究	10
11.3	高木俊人	福島大学理工学群共生システム理工学研究科	フクジュソウ属	研究	
11.9~10	加藤ゆき恵	釧路市立博物館	笠井文夫採集標本など	研究	
11.11	山崎真実	札幌市博物館活動センター	ラン科	研究	
11.17	志田祐一郎	(株)野生生物総合研究所	タヌキモ属、ホシクサ属	その他	2
11.17	五十嵐博	北海道野生植物研究所	キク科など	研究	
11.29	高橋尚敏	北海道大学北方圏フィールド科学センター植物園/大学院環境科学院	イヌナズナ属	研究	50
1.13	菊地賢	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 北海道支所	キイチゴ属	研究	1
2.11	齋藤央	神戸山草会	スゲ属	研究	
2.13~2.15	田中徳久	神奈川県立生命の星・地球博物館	神奈川県産植物標本	研究	
2.14	水島未記	北海道博物館	湿原植物	展示	

3.7	志田祐一郎	(株)野生生物総合研究所	ハナヤスリ科	その他	1
3.9	五十嵐博	北海道野生植物研究所	キク科など	研究	

・借受

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.18~6.30	加藤ゆき恵	釧路市立博物館	カワリミタンポポモドキ属	研究	23
7.1~9.15	古田くるみ	美唄市郷土史料館	美唄市産標本	展示	11
6.6~10.31	加藤ゆき恵	釧路市立博物館	北海道・サハリン産標本	展示	44
11.29~1.13	末次健司	神戸大学大学院理学研究科	イチヨウラン	研究	49
10.18~2.7	山崎真実	札幌市博物館活動センター	植物画	展示	11
1.27~2.13	末次健司	神戸大学大学院理学研究科	サイハイラン	研究	84

・寄贈標本

SAPS では学内/学外者による標本寄贈が日常的に行われている。例年ここでは大型のコレクションの受入（1,000 点以上）のみを記すこととしているが、2022 年度の受け入れはなかった。

・新規整理登録標本

北海道産維管束植物標本 約 3,000 点

・利用に基づく報文（26 報）

1. Tamura S, Takahashi T, Shutoh K, Sato K, Shimamura T, Nakamura K. 2022. Lectotypification of *Saxifraga yuparensis* Nosaka (Saxifragaceae). *Phytotaxa* 543(1): 95–98.
2. Nitta N, Sato K. 2022. A New Variety of *Daphne kamtschatica* (Thymelaeaceae) from Mt. Kirigishi, Central Hokkaido, Japan. *Journal of Japanese Botany* 97(3): 125–130.
3. Yano O, Shutoh K, Kato Y, Ikeda H. 2022. Lectotypification of *Carex* (Cyperaceae) described by Dr. Shigeo Akiyama in the Herbarium of Hokkaido University Museum (SAPS) (I). *Journal of Japanese Botany* 97(3): 156–166.
4. 木村耕. 2022. ヤツガタケシノブ（イノモトソウ科）北海道に産す. *植物研究雑誌* 97(4): 219–221.
5. Nakagawa H, Sato K, Shutoh K. 2022. Rediscovery of *Silene harae* Nakai (Caryophyllaceae) from Hokkaido, Japan. *Journal of Japanese Botany* 97(4): 232–235.
6. 中川博之, 佐藤謙, 首藤光太郎. 2022. タカネタチイチゴツナギ *Poa glauca* Vahl (イネ科) の北海道新産を確認する. *植物研究雑誌* 97(4): 236–240.
7. Nakagawa H, Nagamasu H, Nemoto S, Fuse S, Ebihara A, Shutoh K. 2022. *Leymus komarovii* (Triticeae, Poaceae) in Japan. *Acta phytotaxonomica et geobotanica* 73(2): 151–157.
8. 佐藤広行, 内田暁友, 藤田玲, 中川博之, 小笠原誠, 嶋崎太郎, 新田 紀敏. 2022. キタササガヤと

- ササガヤ (イネ科) の北海道での分布. 植物地理・分類研究 70(2): 121-125.
9. 横川昌史. 2022. 奥尻島新産のモウコガマおよび北海道産モウコガマの標本記録. 植物地理・分類研究 70(2): 175-180.
  10. Shutoh K, Hirose T, Shibahara T, Yamazaki M, Shiga T. 2022. Obtaining new records of critically endangered *Potamogeton praelongus* (Potamogetonaceae) depending on groundwater springs in northern coastal areas of Hokkaido, Japan. Journal of Asia-Pacific Biodiversity 15(4): 665-670.
  11. 中川博之, 首藤光太郎, 佐藤謙, 黒沢高秀. 2022. 大雪山系富良野岳で確認されたツンドラスズメノヒエ (イグサ科). 植物研究雑誌 97(6): 329-335.
  12. Sawada M, Sakurai M. 2022. The first record of an alien species, *Chrysaster ostensackenella* (Fitch, 1859) (Lepidoptera: Gracillariidae), in Japan. Japanese Journal of Entomology (New Series) 25(3): 106-110.
  13. 首藤光太郎, 山崎真実, 宮本誠一郎, 村上賢治, 佐藤謙. 2023. 礼文島久種湖の水生植物相. 水草研究会誌 (114): 1-9.
  14. Fujii S, Kurosaki N. 2023. Morphological and Taxonomic Study of *Carex planata* var. *angustealata*. Acta phytotaxonomica et geobotanica 74(1): 17-27.
  15. 中川博之, 首藤光太郎. 2023. アイヌムギ (イネ科) の再同定の経緯および近縁種アズマガヤとの比較. 旭川市北邦野草園研究報告 (11): 1-6.
  16. 五十嵐博. 2023. オオホタルサイコ (セリ科) の北海道分布. 旭川市北邦野草園研究報告 (11): 7-11.
  17. 中川博之, 首藤光太郎, 佐藤謙. 2023. 大雪山系朝陽山の維管束植物相. 旭川市北邦野草園研究報告 (11): 19-35.
  18. 高橋英樹. 2023. 渋江長伯『蝦夷草木腊葉帖』(1799) のラン科標本. 北方山草 (40): 13-20.
  19. 谷亀高広, 新田紀敏. 2023. ラン科に見られるペロリズムについて—キンラン属植物を例として—. 北方山草 (40): 21-23.
  20. 五十嵐博. 2023. アオチドリ (ラン科) の北海道分布. 北方山草 (40): 33-36.
  21. 五十嵐博. 2023. 北海道のホタルブクロとヤマホタルブクロ (キキョウ科). 北方山草 (40): 66-69.
  22. 新田紀敏. 2023. キリギシナニワズと命名. 北方山草 (40): 70-75.
  23. 五十嵐博. 2023. 北海道のカワラナデシコ (ナデシコ科). 北方山草 (40): 80-82.
  24. 佐々木純一, 佐藤広行. 2023. ロシア人植物学者 Maximowicz が函館で採集したイヌノヒゲの産地の解明. 北方山草 (40): 85-90.
  25. 武田千恵子. 2023. 北海道シダ植物相調査報告 7—石垣山・黄金山・春香山・空沼岳—. 北方山草 (40): 115-124.
  26. Sarwar AKMG, Hoshino F, Takahashi H. 2023. Pollen morphology of *Daphne jezoensis* Maxim. (Thymelaeaceae) and its taxonomic and adaptive significance. Japanese Journal of Palynology 68(2): 55-62.

27. Sarwar AKMG, Takahashi H. 2023. Discrepancies in reports of pollen morphology for *Pulsatilla cernua* (Ranunculaceae). Japanese Journal of Palynology 68(2): 63–66.

### <菌類標本利用記録> (担当 小林孝人 資料部研究員・首藤光太郎 助教)

菌類標本庫 (SAPA) には、明治時代から採集されてきた菌類標本が収蔵されている。今年度は、来庫者4名で、貸出は2件あった。

・目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他	総数
35	1	32	6	74

この数字は、借用時に記入されたものに基づいている。分類群標本1点を1点と計数している。

・標本庫 (標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書が提出されたもののみで、実際の利用者の一部である)

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
22.7- 22.12	升屋隼人 & 服部由香子	森林総合研究所	Valsa, Leucostoma	研究	67
22.4- 24.3	玉井裕	北海道大学農学部	日本産菌類	研究	5

### <海藻標本利用記録> (担当 阿部剛史 准教授)

### <昆虫標本利用記録> (担当 大原昌宏 教授)

新型コロナウイルスの影響があり、北海道大学の院生や学生の利用は、定期的にあったものの、学外の研究者や院生などによる当館の使用は、例年に比べ少なかった。

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.25	金子 司 岸田泰則 枝恵太郎	北海道大学 日本鱗翅学会、元会長 昆虫文献六本脚	Lepidoptera	研究	不明
5.11	金子 司	北海道大学	Lepidoptera	研究	不明
6.1	堀 繁久 山内英治	北海道博物館	general Insect	企画展 示準備	不明

6.22	堀 繁久 山内英治	北海道博物館	general Insect	企画展 示準備	不明
6.28	堀 繁久 山内英治	北海道博物館	general Insect	企画展 示標本 搬出	不明
7. 20- 7.21	鈴木 功	岐阜県	Coleoptera, Curculionidae	研究	不明
7.20	廣瀬勇輝	東京農業大学	Hymenoptera, Braconidae	研究	不明
8.8- 8.11	阿部純大	九州大学	Hymenoptera, Proctotrupidae	研究	354 exs.
8.12	末吉昌宏	森林総合研究所、つく ば	Diptera, Stratiomyidae	研究	不明
8.16	小西和彦 大松勇司	愛媛大学	Hymenoptera, Ichneumonidae	研究	不明
8.18- 8.23	久野未希	九州大学	Hymenoptera, Cynipidae	研究	105
8.23	富永豪太	弘前大学	Neuroptera	研究	105
8.31	辻 尚道	九州大学	Coleoptera, Curculionidae	研究	不明
9.11- 9.12	橋爪拓斗	九州大学	Coleoptera, Carabidae	研究	不明
9.25	井上修吾	九州大学	Coleoptera, Curculionidae	研究	不明
9.29	堀 繁久 山内英治	北海道博物館	general Insect	企画展 示標本 返却	不明
10.24- 10.25	Triapitsyn, Sergei V.	University of California, USA	Hymenoptera, Mymaridae	研究	不明
10.26	記者、カメ ラマン	北海道新聞社	Coleoptera, Hydrophilidae, Cercyon dux	取材	1 ex.
11.1- 11.11	Choi Subin	韓国忠南大学校	Hymenoptera, Encyrtidae	研究	31 exs.
11.1- 11.21	Bae Jongmin	韓国忠南大学校	Hymenoptera,	研究	96 exs,
11.8- 11.9	鈴木 互 齊藤秀正	東京都	Coleoptera, Elateridae, Cerambycidae (Pidonia)	研究	不明
11.15- 11.17	鈴木 功	岐阜県	Coleoptera, Curculionidae	研究	不明
11. 23	北川一馬	大阪府	Odonata	研究	不明

11.24	屋宜禎央 奥 尉平	九州大学	Lepidoptera	研究	不明
12.9	野崎 翼	九州大学	Coleoptera, Staphylinidae	研究	不明
12.12	新里達也	環境指標生物、東京	Coleoptera, Cermbicidae, Oedemelidae	研究	不明
2.8	Tseng, Hui- Yun	National Taiwan University	Coleoptera, Curculionidae	研究	不明
2.8	新里達也	環境指標生物、東京	Coleoptera, Cermbicidae	研究	不明
2.23- 2.24	伊藤直哉	九州大学	Coleoptera, Nitidulidae	研究	不明
2.27- 2.28	小川直記	三菱マテリアル	Coleoptera, Elimidae	研究	不明
3.2	田作勇人	東海大学	Coleoptera, Staphylinidae	研究	不明
3.22- 3.23	今田舜介	九州大学	Coleoptera, Anthribidae	研究	不明

・借受

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
5.27	奥田恭介	埼玉県立自然の博物館	Hemiptera, Redyiidae	研究	2
8.23	新里達也	環境指標生物、東京	Coleoptera, Oedemeridae	研究	33
8.23	阿部純大	九州大学	Hymenoptera, Proctotrupidae	研究	354 exs.
8.23	廣瀬勇輝	東京農業大学	Hymenoptera, Braconidae	研究	71
8.23	小西和彦	愛媛大学	Hymenoptera, Ichneumonidae; Diptera, Asilidae	研究	526
9.7	中村剛之	弘前大学	Neuroptera, Hemerobiidae	研究	87
10.4	松尾和典(院 生:久居未き ぼ)	九州大学	Hymenoptera, Eulophidae	研究	105
10.6	広渡俊哉(院 生:辻 尚 道)	九州大学	Coleoptera, Curculionidae	研究	16

10. 6	丸山宗 (利院 生 : 井上修 吾)	九州大学	Coleoptera, Curculionidae	研究	16
11. 2-	Sunghoon Jung	韓国忠南大学	Hemiptera, Fulgoroidea, Cicadellidae	研究	不明
11. 11-	奥寺 繁	北海道教育大学旭川	Hemiptera	研究	17
11. 11-	Sunghoon Jung (Subin Choi)	韓国忠南大学	Hymenoptera, Encyrtidae	研究	31
11. 11-	Sunghoon Jung (Jongmin Bae)	韓国忠南大学	Hymenoptera, Eulophidae	研究	96
11. 29	Lee Seunghwan	韓国ソウル大学	Hemiptera, Aphidiae	研究	196
12.6	屋宜禎央	九州大学	Lepidoptera,	研究	41
12.6	鈴木 互	東京都	Coleoptera, Elateridae	研究	24
12.9	丸山宗利 (院 生 : 野崎翼)	九州大学	Coleoptera, Staphylinidae	研究	1
12.23	新里達也	環境指標生物、東京	Coleoptera, Oedemeridae	研究	1
1.20	Christopher Dietrich	Illinois Natural History Survey, USA	Hemiptera, Cicadellidae	研究	7
3.1	荒谷邦雄 (院 生 : 伊藤直 哉)	九州大学	Coleoptera, Nitidulidae	研究	162
3.2	笹川幸治	千葉大学	Coleoptera, Carabidae	研究	14

・ 寄贈標本

寄贈者名	標本名	点数	受け入れ日
松沢春雄 (諏訪市)	ハムシおよび甲虫標本 (国内、国 外)	小型印籠箱 800 箱	2023 年 1 月 27 日

・新規整理登録標本

標本名	整理・登録	点数
SEHU-insect (昆虫類: 鞘翅目、膜翅目)	登録 (S-NET/GBIF 掲載データ)	5000

4-3) SEHU 標本が引用された主な論文 10 件

1. Yasuda, K., & H. Yoshitomi, 2022. Revision of the genus *Georissus* (Coleoptera, Hydrophilidea, Georissidae) of Japan. *European Journal of Taxonomy*, 817: 111–142.
2. Shigetoh, H. & H. Suenaga, 2022: Description of a new species of the genus *Argopistes* Motschulsky (Coleoptera, Chrysomelidae, Galerucinae, Alticini) from the Ryukyu Islands and Daitô Islands, southwestern Japan, and Redescription of *A. coccinelliformis* Csiki. *Elytra*, (n. ser.), 12 (1): 1-13.
3. dela Cruz, I. N., and M. Ôhara, 2022. New records and redescription of *Atholus bifrons* (Marseul, 1854) (Coleoptera, Histeridae) from the Ryukyus, Japan and Borneo Island, Indonesia. *Elytra*, Tokyo, (n. ser), 12(2): 237–245.
4. Suzumura, A. L., R. Kawauchiya, M. Ôhara, N. Inari and N. Kobayashi, 2022. Records of the supralittoral species of the genus *Cercyon* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra*, Tokyo, (n. ser), 12(1): 79–133.
5. 瑤寺 裕・大原昌宏, 2022. 沖縄諸島屋我地島におけるクロチビエンマムシの記録. *Sayabane*, (n. ser.), (47): 27.
6. 大原昌宏・中岡利泰・高木大稔・小川直記・菊地波輝・山本ひとみ, 2022. 北海道えりも町豊似湖周辺ほか昆虫調査報告. VI. 甲虫類 4. えりも研究, (19): 1–4.
7. Ho, Y.-H., and M. Ôhara, 2022. Beetles of the genus *Lewisister* (Coleoptera, Histeridae), with description of a new species from Taiwan. *Zoological Studies*, 61: 31. doi:10.16620/ZS.2022.61-31.
8. Ôhara, M., and K.-J. Ahn, 2022. Description of two new species of Histeridae (Coleoptera) in Korea. *Journal of Aisa-Pacific Entomology*, 25 (2022) 101966. doi.org/10.1016/j.aspen.2022.101966
9. Kushuhara, H., & S. V. Triapitsyn, 2023. A new host record for the leafhopper egg parasitoid *Lymaenon aureus* (Girault, 1911) (Hymenoptera, Mymaridae). *Japanese Journal of Entomology*, 26 (1): 8-11.
10. Triapitsyn, S. V., H. Kusuvara, P. F. Rugman-Jones & T. Adachi-Hagimori, 2023. Revised molecular characterization of *Gonatocerus cincticipitis* Sahad (Hymenoptera: Myrmaridae), an egg parasitoid of green rice leafhopper *Nephotettix cincticeps* (Uhler) (Hemiptera: Cicadellidae) in Japan. *Journal of Asia-Pacific Entomology*, 26 (2023) 102069.

## <魚類標本利用記録> (担当 田城文人 助教)

### 【利活用】

本学の魚類標本は、日常的に教員・学生の研究、および学生の教育に活用されている。その他にも、国内外から多数の標本借用の要望があり、本学以外の研究者にも活用されている。2022年度は新型コロナウイルスに関連する社会の動きの変化に伴い標本庫の学外利用も増加した。外部機関からの資料移管に関する問い合わせ・依頼が増えつつあり、それらの中には古い標本群や既報論文の証拠標本なども含まれる。それらの受け入れ判断等は、他博物館とも連携して次年度以降に取り組む予定である。

### ・目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他	総数
2150	0	0	2	2152

### ・標本庫（総合博物館構成員の利用は除く）

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.1-3.31	古庄 誠	北海道大学水産科学院	中深層性魚類他	研究	250
4.1-3.31	小幡 光汰	北海道大学水産科学院	ヘコガレイ科魚類他	研究	300
4.1-3.31	樋口 淳也	北海道大学水産科学院	ホウボウ科魚類他	研究	200
4.1-3.31	井黒 浩輔	北海道大学水産科学院	ウラナイカジカ科魚類他	研究	60
4.1-3.31	園山 萌香	北海道大学水産科学院	ギンアナゴ属魚類他	研究	100
4.1-3.31	濱田 幸穂	北海道大学水産科学院	アンコウ属魚類他	研究	50
4.1-3.31	山梨 颯太	北海道大学水産科学院	フサカサゴ科魚類他	研究	40
4.1-3.31	李 柁浩	北海道大学水産科学院	ゲンゲ科魚類他	研究	50
4.1-3.31	網中 結仁	北海道大学水産学部	メゴチ	研究	150
4.1-3.31	飛田 祥太	北海道大学水産学部	ガンコ	研究	110
4.1-3.31	松田 悟史	北海道大学水産学部	コチ科魚類他	研究	150
4.1-3.31	松本 堅	北海道大学水産学部	ギンザメ目・サメ区魚類他	研究	110
4.1-3.31	檜垣 健介	北海道大学水産学部	ネズミギンポ	研究	100
4.1-3.31	張 逸帆	北海道大学水産学部	中深層性魚類他	研究	20
4.1-3.31	山口 篤・松野 孝平 他	北海道大学水産科学院 プランクトン教室	プランクトン標本	研究	10回
5.26-27	松沼瑞樹	京都大学総合博物館	海産魚類各種	研究	50
6.7	金井聖弥	東海大学生物学部	ニシキギンポ属魚類	研究	40
9.5-6	内山幸子	東海大学生物学部	北方産海産魚類	研究	20
11.10-11	荻田 佑 他 2名	信州大学学術研究院農学系	北海道産海産魚類	研究	10

12.20-21	甲斐 嘉晃	京都大学舞鶴水産実験所	クサウオ科魚類他	研究	50
12.20-21	森 俊彰	アクアマリンふくしま	クサウオ科魚類他	研究	40
12.20-21	三澤 遼	水産研究・教育機構 水産資源研究所	ガンギエイ目・アンコウ目 魚類他	研究	40
3.14-16	篠原 現人	国立科学博物館	ゲンゲ科魚類他	研究	50

・借受

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.8	甲斐 嘉晃	京都大学舞鶴水産実験所	魚類標本	研究	8
4.8	甲斐 嘉晃	京都大学舞鶴水産実験所	魚類標本（移管）	研究	1
4.8	甲斐 嘉晃	京都大学舞鶴水産実験所	魚類標本（DNA 解析用 試料）	研究	3
4.14	Dahiana Arcila	Sam Noble Oklahoma Museum of Natural History, University of Oklahoma	魚類標本（DNA 解析用 試料）	研究	3
4.14	本村 浩之	鹿児島大学総合研究博物館	魚類標本	研究	1
5.13	岩田 明久	京都大学アジア・アフリカ 研	魚類標本	研究	10
5.13	星野 浩一	水産研究・教育機構 水産技術研究所	魚類標本	研究	4
6.6	Hsuan- Ching Ho	National Museum of Marine Biology and Aquarium	魚類標本	研究	1
6.28	本村 浩之	鹿児島大学総合研究博物館	魚類標本	研究	7
6.28	本村 浩之	鹿児島大学総合研究博物館	魚類標本	研究	7
6.28	本村 浩之	鹿児島大学総合研究博物館	魚類標本	研究	3
6.28	本村 浩之	鹿児島大学総合研究博物館	魚類標本	研究	2
6.28	本村 浩之	鹿児島大学総合研究博物館	魚類標本	研究	2
6.28	本村 浩之	鹿児島大学総合研究博物館	魚類標本	研究	2
9.01	James Maclaime	Natural History Museum London	魚類標本（資料交換）	研究	6
10.13	河村 功一	三重大学生物資源学部	魚類標本（DNA 解析用 試料）	研究	7

11.16	松沼 瑞樹	京都大学総合博物館	魚類標本	研究	34
12.8	荒木 仁志	北海道大学大学院農学研究院	魚類標本 (DNA 解析用試料)	研究	1
12.24	松沼 瑞樹	京都大学総合博物館	魚類標本	研究	11
2.9	非公開	朝日新聞社	魚類デジタル写真	その他	2
2.17	甲斐 嘉晃	京都大学舞鶴水産実験所	魚類標本	研究	1
2.20	Hsuan-Ching Ho	National Museum of Marine Biology and Aquarium	魚類標本	研究	8
2.20	坂上 嶺	北海道立総合研究機構栽培水産試験場	魚類標本	研究	2
3.24	篠原 現人	国立科学博物館	魚類標本	研究	37

・ 寄贈標本

標本名	寄贈者名	点数
魚類標本	非公開 (4名・機関)	1200

・ 新規整理登録標本

標本名	整理・登録	点数
魚類標本	登録 (HUMZ 232504-233525)	1,022
甲殻類標本	登録 (HUMZ-C 2417-2423)	7
魚類標本	整理	多数

5-4) 証拠標本として利用された主な論文

1. Amaoka, K. and Ho, H.-C. 2022. *Engyprosopon keliaoense*, a new lefteye flounder (Teleostei: Bothidae) from Taiwan. *Zootaxa*, 5189: 222–232.
2. Ebert, D. and Jang, J. J. 2022. *Galeus friedrichi* (Carcharhiniformes: Pentanchidae), a new sawtail catshark from the Philippines. *Journal of the Ocean Science Foundation*, 39: 45–53.
3. 深澤藍子・和田 哲. 2023. ヨツハモガニ *Pugettia quadridens* (De Haan, 1837) の北海道函館湾からの初記録. *CANCER*, 31: 49–52.
4. 瀧田幸穂・三宅教平・河合俊郎. 2022. 北海道長万部町沖太平洋から採集されたクロホシマンジュウダイの記録. *日本生物地理学会会報*, 73: 109–113.
5. Ho, H.-C. and Lin, C.-H. 2022. Redescription of *Lophiodes lugubris* (Alcock, 1894), with the largest record of *Lophiodes triradiatus* (Lloyd, 1909) from the South China Sea (Lophiiformes: Lophiidae). *Zootaxa*, 5189: 138–145.
6. Ho, H.-C. and Ma, W.-C. 2022. Four new species of the frogmouth genus *Chaunax*

- (Lophiiformes: Chaunacidae) from Taiwan and the Philippines. *Zootaxa*, 5189: 146–179.
7. Imamura, H., Koeda, K. and Ho, H.-C. 2022. A northward range extension of *Thysanophrys papillaris* (Actinopterygii: Scorpaeniformes: Platycephalidae) to Taiwan. *Acta Ichthyologica et Piscatoria*, 52: 267–271.
  8. Kai, Y., Otani, A., Misawa, R., Frable., B. W. and Tashiro, F. 2022. First Records of a Rare Deep-sea Anglerfish, *Himantolophus azurlucens*, from the Western North Pacific, with Comments on the DNA Barcodes of the Genus (Lophiiformes: Himantolophidae). *Species Diversity*, 27: 285–292.
  9. Kuroshima, K., Obata, K. and Kawai, T. 2022. Dextral osteology of *Chascanopsetta lugubris* (Teleostei: Pleuronectiformes: Bothidae) from the eastern Indian Ocean. *Bulletin of Fisheries Sciences, Hokkaido University*, 72: 27–31.
  10. Lee, H.-L., Yu, H.-J. and Kim, J.-k. 2022. New descriptions of four larval lanternfish species and cryptic diversity of *Benthoosema pterotum* (Pisces: Myctophidae) from the Northwest Pacific. *Journal of Fish Biology*, 101: 1474–1500.
  11. Misawa, R., Babaran, R. P. and Motomura, H. 2022. *Okamejei panayensis* sp. nov., a new skate (Rajiformes: Rajidae) from the Philippines. *Ichthyological Research*. <https://doi.org/10.1007/s10228-022-00874-1>.
  12. Munehara, H. et al. 2022. *Rhamphocottus nagaakii* (Cottoidea: Rhamphocottidae), a new species of grunt sculpin from the northwestern Pacific, with notes on the phylogeography of the genus *Rhamphocottus*. *Ichthyological Research*. <https://doi.org/10.1007/s10228-022-00885-y>.
  13. Nakamura, K. and Kawai, T. 2022. Morphological intraspecific variation of a softnose skate, *Bathyraja diplotaenia* (Ishiyama, 1952) (Rajiformes: Arhynchobatidae). *Bulletin of Fisheries Sciences, Hokkaido University*, 72: 9–16.
  14. Shinihara, G., Nazarkin, M. V. and Narimatsu, Y. 2022. Taxonomic Review of the Rare Deep-sea Eelpout, *Lycenchelys maculata* (Pisces, Zoarcidae). *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A*, 48: 215–227.
  15. Tashiro, F. and Chen, W.-J. 2022. *Ilyophis singularis* (Synaphobranchidae; Ilyophinae), a new deep-sea eel from the South China Sea. *Ichthyological Research*. <https://doi.org/10.1007/s10228-022-00887-w>.
  16. Kawanishi, R., Miyazaki, Y. and Sato, T. P. 2023. *Mothocya kaorui* n. sp. (Crustacea: Isopoda: Cymothoidae), a fish-parasitic isopod with unique antennules from the Izu Islands, Japan. *Systematic Parasitology*. <https://doi.org/10.1007/s11230-023-10083-7>.
  17. Matsunuma, M., Matsumoto, T., Motomura, H., Seah, Y., and Jaafar, T. N. A. M. 2023. *Coradion calendula*, a new butterflyfish from Australia (Teleostei: Chaetodontidae). *Journal of the Ocean Science Foundation*, 40: 1–28.

18. 三澤 遼. 2023. オホーツク海におけるザラカスベの記録の再検討. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 28: 42-48.
19. 三澤 遼・鈴木勇人・甲斐嘉晃. 2023. 東北地方太平洋沖から得られた日本初記録のヒレナガチョウチンアンコウ科魚類 *Caulophryne polynema* フサフサヒレナガチョウチンアンコウ (新称). *魚類学雑誌*, 69: 129-136.
20. Nakayama, N., Yamakawa, T., Takami, M. and Endo, H., 2023. Description of a New Deep-Water Eulophiid Fish (Perciformes: Zoarcoidei) from Japan. *Ichthyology and Herpetology*, 111 (1): 87-97.
21. 奥 香菜美・田城文人・河崎誠記・甲斐嘉晃. 2023. 京都府で記録されたアヤマエビス (イトウダイ目イトウダイ科) とアオブダイ (ペラ目ブダイ科). *タクサ*, 54: 42-48.
22. da Silva, J. P. C. B. and Diego, F. B. V. 2023. Morphology and phylogenetic significance of the pelvic articular region in elasmobranchs (Chondrichthyes). *Cladistics*. <https://doi.org/10.1111/cla.12528>.
23. Viana, S. and Soares, K. D. A. 2023. Untangling the systematic dilemma behind the roughskin spurdog *Cirrhigaleus asper* (Merrett, 1973) (Chondrichthyes: Squaliformes), with phylogeny of Squalidae and a key to *Cirrhigaleus* species. *PLoS ONE*, 18(3): e0282597. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0282597>.

### <古生物学標本利用記録> (担当 小林快次 教授)

北海道大学の院生や学生の利用は、定期的にあったものの、学外の研究者や院生などによる当館の使用は、例年に比べ少なかった。現在、富士フィルムと岡山理科大学の共同研究のため、モンゴルから発見された恐竜化石の分析のため標本を利用した。

#### ・目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他	総数
2	-	-	-	64

#### ・借受

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
8. 3-	疋田吉識	中川町エコミュージアムセンター	プリオサウルスの共産化石	研究	14
12. 13-	辻極秀次	岡山理科大学	恐竜の骨	研究	50

#### ・寄贈標本

なし

・新規整理登録標本

標本名	整理・登録	点数
無脊椎動物化石標本	整理	100

＜岩石鉱物鉱石標本利用記録＞（担当 北野一平 助教）

総合博物館には、1930（昭和5）年に理学部旧地質学鉱物学教室が開設されて以降、歴代の教官・学生により国内外より収集・蓄積されてきた岩石・鉱物・鉱石標本が約18万点収蔵されている。現在ではほとんど入手不可能な千島列島や北朝鮮産の貴重な岩石・鉱物・鉱石標本をはじめ、北海道ではライマン標本に次いで二番目に古いとされる札幌農学校卒業生等により収集された地質標本コレクション、国内の全ての産地から採集され全試料の化学分析データも揃った黒曜石標本、北海道産新鉱物や北海道内の既に閉山された各鉱山産の鉱石・変質母岩類も収蔵されている。今年度は、研究用で4点の岩石標本とSDGs事業推進本部のイベントに石炭標本1点が利用された。また、中谷宇吉郎復元研究室内の資料調査での利用があり、2023年認定新鉱物「北海道石」を含む5件の標本寄贈があった。そのほかに、当館で、小惑星リュウグウのサンプルレプリカの展示を実施した。ボランティアを中心とした標本整理作業は継続されており、収蔵標本の情報照合のみならず、写真撮影、サイズ測定も行い、標本 excel データを更新して標本情報のデータベース化を着実に進めている。

・目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他	総数
4	1	3	0	8

・標本庫

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
3.23	古川義純 Floris Winckel	中谷宇吉郎雪の科学館	中谷宇吉郎復元研究室資料	研究	

・借受

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
9.1	中川 光弘	北海道大学大学院 理学研究院	千島列島産火山岩 試料	研究	4
1.6 ~ 1.11	加藤 悟	北海道大学サステ イナビリティ推進 機構 SDGs 事業推 進本部	石炭（目無し炭）	教育	1

・寄贈標本

標本名	寄贈者名	点数
ヤップ島石貨	生松 芳郎	1
蛍石	池田 攻	1
三稜石	池田 攻	1
三稜石台座	池田 攻	1
目無し炭	間口 久美子	1
北海道石	石橋 隆	2
カルパチア石	石橋 隆	1
オパール	石橋 隆	1
変形岩	竹下 徹	21

・新規整理登録標本

標本名	整理・登録	点数
由井標本および野帳	整理	886
常設展示室収蔵岩石標本	整理・データ更新	332
小惑星リュウグウのサンプルレプリカ	登録	3
南極岩石試料	登録	653
栃木県産岩石試料	登録	6
ベトナムラオカイ産銅鉱石・母岩	登録	16
日高変成岩	登録	5

・利用に基づく報文

なし

**<考古学標本利用記録> (担当 江田真毅 教授)**

総合博物館の考古学標本は主に文学部附属北方文化研究施設が 1960～1970 年代に発掘した道北地域のオホーツク文化期の資料群である。今年度は、香深井 1 遺跡（礼文町）から出土した土器の資料調査が目立った。従来の肉眼比較による研究のほか、土器付着炭化物の理化学分析などにも利用されている。また、目梨泊遺跡（枝幸町）の発掘調査報告書の作成に向けて、資料部研究員を中心に日々資料の整理が進められている。このほか、領土・主権展示館で開催された企画展「アホウドリー地球を旅する奇跡の鳥ー」展のため、香深井 1 遺跡から出土したアホウドリの骨製の骨角器を貸出した。

・目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他	総数
333	0	1	0	334

・ 標本庫（標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書が提出されたもののみで、実際の利用者の一部である）

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.21, 4.28	ロバート・ パワー	JSPS 外国人特別研究員	香深井 1 遺跡出土資料（土器）	研究	61
5.13	福田 正宏	東京大学大学院	北海道道北地域一般調査出土遺物群	研究	24
6. 20	小嶋 芳孝	金沢大学	香深井 1 遺跡出土資料（土器）	研究	1
6.28	坂本 尚史	北海道埋蔵文化財センター	香深井 1 遺跡出土資料（有孔円盤）	研究	33
10.15- 10.16	柳澤 清一	早稲田大学総合研究機構	香深井 1 遺跡出土資料（土器）	研究	191

・ 借受

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
7.6	國木田 大	北海道大学大学院文学研究院	香深井 1 遺跡出土資料（土器）	研究	5
7.20	國木田 大	北海道大学大学院文学研究院	香深井 1 遺跡出土資料（土器）	研究	15
7.14-9.30	迫坪 清憲	株式会社ムラヤマ	香深井 1 遺跡出土資料（骨角器）	展示	1
7.26	國木田 大	北海道大学大学院文学研究院	香深井 1 遺跡出土資料（土器）	研究	3

・ 寄贈標本 なし

・ 新規整理登録標本

標本名	整理・登録	点数
香深井 1 遺跡出土の海獣骨	整理	
目梨泊遺跡出土資料	整理	

・ 利用に基づく報文（1 報）

1. 小嶋芳孝 2023. 『古代環日本海地域の交流史』 六一書房.

### <脊椎動物標本利用記録>（担当 江田真毅 教授）

総合博物館の脊椎動物標本は主に獣医学部や歯学部の解剖学教室において主に 1960 年代以降に収集された資料群である。エゾシカを中心としたシカ類、全道のキタキツネ、動物園で飼育されていたキリンや

ライオン、カバなど貴重な標本が収蔵されている。今年は、ミサゴの剥製を対象とした化学分析のための採材やヒグマ頭骨、モモイロペリカン、コアホウドリ、ジェンツーペンギンの遺体の比較解剖学などのための利用があった。また、鳥類の生態調査への利用を目的とした剥製標本の貸出や、港区立郷土歴史館で開催された特別展「Life with ネコ展」での展示のためのネコ科骨標本の貸出があった。さらに、ヒグマやキツネ、ラッコなどの骨標本やヒグマの剥製標本が本学の講義やイベントなどに借り出されている。

・目的別点数のまとめ

研究	教育	展示	その他	総数
54	62	5	0	121

・標本庫（標本庫は学内の院生・学生に日常的に利用されている。以下の利用記録は申請書が提出されたもののみで、実際の利用者の一部である）

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
7.11	氏家 太	筑波大学大学院	ミサゴ剥製	研究	2
1.27	工藤 智美	札幌科学技術専門学校	骨格標本（鳥類・哺乳類など）	教育	
2.15.- 2.17	高橋 鵬成	礼文町教育委員会	骨格標本（哺乳類各種）	研究	12

・借受

利用期間	利用者	所属	標本名	目的	点数
4.1.-3.31	増田 隆一	北海道大学理学研究院	哺乳類頭骨標本	教育	56
4.1.-3.31	奥田 ゆう	岡山理科大学	鳥類標本（コアホウドリ他）	研究	3
4.1.-3.31	板倉 来衣人	帯広畜産大学	頭骨標本（ヒグマ）	研究	17
4.26.-9.30	齋藤 和彦	港区立郷土歴史館	骨格標本（ネコ科）	展示	4
6.1.-6.15	青木 大輔	森林総合研究所	鳥類剥製	研究	5
6.28.	渡辺 双葉	北海道教育庁	骨格標本（鳥類・哺乳類）	研究	15
1.8.-1.10	工藤 智美	えぞホネ団 Sapporo	骨格標本（ヒグマ）	教育	2
1.19-1.20	工藤 智美	えぞホネ団 Sapporo	骨格標本（ライオン他）	教育	4
1.25.	菅 遥斗	理学部地球惑星科学科	ヒグマ剥製	展示	1

・寄贈標本

標本名	寄贈者	点数
アオウミガメ剥製	札幌市・個人	2

オオワシ剥製	札幌市・個人	1
--------	--------	---

・新規整理登録標本

標本名	整理・登録	点数
哺乳類標本	登録	1902
鳥類標本	登録	169
爬虫類・両生類・魚類標本	登録	37

・利用に基づく報文（7報）

1. 港区立郷土歴史館 2022.『港区立郷土歴史館特別展 Life with ネコ展』港区教育委員会.
2. Waki, T., Eda, M., Shimano, S. 2023. Two feather mite species (Alloptidae, Freyanidae) associated with the Laysan Albatross *Phoebastria immutabilis* (Rothschild, 1893) (Diomedidae) from Japanese coastal waters. ***Systematic and Applied Acarology***, 23, 63-76. DOI: <https://doi.org/10.11158/saa.28.1.7>
3. Hsu, K., Yamane, Y., Eda, M. 2022. Chickens consumed in early modern samurai residences: A study of bird remains from the Ichigaya Honmura-cho site, Tokyo, Japan. ***International Journal of Osteoarchaeology***, 32, 889-903. <https://doi.org/10.1002/oa.3124>
4. Eda, M. 2022. The osteological microevolution of red junglefowl and domestic fowl under the domestication process. ***Quaternary International***, 626-627, 14-21, <https://doi.org/10.1016/j.quaint.2020.10.001>
5. 志賀健司著, 江田真毅・小林快次監修 2022.『作ろう！フライドチキンの骨格標本 よくわかる恐竜と鳥の骨学入門』, 緑書房.
6. 阿部常樹, 江田真毅 2023.「経済学研究科棟地点出土の動物遺体」東京大学埋蔵文化財調査室編『東京大学本郷構内の遺跡 経済学研究科棟地点』東京大学埋蔵文化財調査室, 225-283 pp.
7. 阿部常樹, 江田真毅, 大内利紗 2022.「大村藩下屋敷における動物利用の様相—医科学研究所附属病院 A 棟地点出土の動物遺体—」東京大学埋蔵文化財調査室編『東京大学白金台構内の遺跡（港区 No.135 遺跡） 医科学研究所附属病院 A 棟地点 研究編』, 東京大学埋蔵文化財調査室, 67-122 pp.

## 〈無脊椎動物標本利用記録〉（担当 柁原宏 教授・資料部研究員）

北大総合博物館に収蔵されている無脊椎動物コレクションはその由来に基づいて大きく3つのカテゴリーに分けられる。1つ目は旧理学部動物学教室収蔵標本に収蔵されていたもの、2つ目は理学部・理学院・理学研究院・多様性生物学講座Iのメンバーが研究に用いた証拠標本、3つ目は学内外の研究者からの寄贈・供託によるものである。2016年の耐震改修以降、主に第一カテゴリー（旧理学部動物学教室収蔵）と第三カテゴリー（寄贈・供託）の標本が3階南棟のS324（液浸標本）とS327（乾燥標本）に収蔵されているが、それらの多くは移転の際に段ボール箱に梱包された状態のまま棚におかれた状態であった（棚の購入に当たり、無脊椎動物の資料維持費を5年分「前借り」していた）。第二カテゴリーの標本の多くは理学部5号館5階の多様性生物学講座Iの研究室で保管されている。これらには Invertebrate Collection of the Hokkaido University Museum (ICHUM)の通し番号を付して管理している。

2022年度（令和4年度）は前年度に引き続き高木麻理さん（技術補助員）に週1回10時～17時勤務していただき、S324室の液浸標本の梱包を解く作業に従事して頂くと同時に、萩谷盛雄氏寄贈の多岐腸類（扁形動物門）コレクション（第三カテゴリー）のラベル作成・データベース登録作業に従事して頂いている。萩谷コレクションはプレパラートボックス約180箱に収蔵された連続切片標本であり、令和4年度は72箱分約500件のラベル貼付とデータベースへの登録が完了した（残りは約60箱）。S324室の液浸標本（第一カテゴリー）の開封作業はほぼ終了した。

令和4年度は学外から2件の標本貸借依頼に対応した。1件は2022年7月、流通経済大学の後藤哲雄教授からの依頼によるもので、コウノアケハダニ *Eotetranychus asiaticus* Ehara, 1966のタイプシリーズ10点（江原昭三コレクション）を6か月間貸与した。もう1件は2022年9月、弘前大学の大明文教授からの依頼で、山口英二ヒルミミズコレクションのシンタイプ標本21点をやはり6か月間貸与した。学内からは環境科学院修士課程1年の今野友陽氏から貸借依頼があり、2022年6月に山口英二ヒルミミズ標本のうち *Cirrodrilus nipponicus* (Yamaguchi, 1932)のシンタイプ4点を貸借した。

第二カテゴリーの標本は令和4年度に約200件増加した。過去にICHUMに供託された標本に基づいて、令和4年度には以下25報の論文（英文22報・和文3報）が公表されている。これらのほとんどは多様性生物学講座Iのメンバーによる業績であるが、ここにはそれに加え、以前に英ウェールズ博物館のKate Mortimer博士に貸与していたモロテゴカイ *Magelona japonica* Okuda, 1937のタイプ標本（ZIHU 2789；奥田四郎多毛類コレクション）に基づいた論文（Taylor et al. 2022）も含まれている。

・利用に基づく報文（25報）

1. Abato J, Yoshida R, Kajihara H. 2022. Histology-free description and phylogenetics of *Tetrastemma parallelus* sp. nov. (Nemertea: Eumonostilifera) from Japan. *Journal of Natural History* 56: 1265–1277.
2. Hirano K, Kakui K. 2022. A new brackish tanaidacean, *Sinelobus kisui* sp. nov. (Crustacea, Peracarida, Tanaidacea), from Japan, with a key to *Sinelobus* species and barcode information from two loci. *Zoosystematics and Evolution* 98: 245–256.
3. Hookabe N, Kajihara H. 2022. Description of *Tubulanus misakiensis* sp. nov. (Nemertea:

- Palaeonemertea) from Sagami Bay, Japan. *Zoological Science* 39: 81–86.
4. Hookabe N, Kajihara H, Chernyshev AV, Jimi N, Hasegawa N, Kohtsuka H, Okanishi M, Tani K, Fujiwara Y, Tsuchida S, Ueshima R. 2022. Molecular phylogeny of the genus *Nipponnemertes* (Nemertea: Monostilifera: Cratenemertidae) and descriptions of 10 new species, with notes on small body size in a newly discovered clade. *Frontiers in Marine Science* 9: 906383.
  5. Hookabe N, Motobayashi H, Jimi N, Kajihara H, Ueshima R. 2022. First record of the decapod-egg predator *Ovicides paralithodis* (Nemertea, Carcinonemertidae) from the snow crab *Chionoecetes opilio* (Decapoda, Brachyura). *Parasitology International* 89: 102567.
  6. Kajihara H, Ganaha I, Kohtsuka H. 2022. Lineid heteronemerteans (Nemertea: Pilidiophora) from Sagami Bay, Japan, with some proposals for the family-level classification system. *Zoological Science* 39: 62–80.
  7. Kajihara H, Abukawa S, Chernyshev AV. 2022. Exploring the basal topology of the heteronemertean tree of life: establishment of a new family, along with turbotaxonomy of Valenciniidae (Nemertea: Pilidiophora: Heteronemertea). *Zoological Journal of the Linnean Society* 196: 503–548.
  8. Kakui K. 2022. Digenean metacercariae parasitic in a staurozoan cnidarian. *Zoological Science* 39: 215–218.
  9. Kakui K, Hiruta C. 2022. Description of a new *Hamatipeda* species, with an 18S molecular phylogeny (Crustacea: Tanaidacea: Typhlotanaidae). *Zoological Science* 39: 140–146.
  10. Kakui K, Komai T. 2022. First record of *Scutariella japonica* (Platyhelminthes: Rhabdozoa) from Hokkaido, Japan, and notes on its host shrimp *Neocaridina* sp. aff. *davidi* (Decapoda: Caridea: Atyidae). *Aquatic Animals* 2022: AA2022-1.
  11. Kakui K, Shimada D. 2022. Dive into the sea: first molecular phylogenetic evidence of host expansion from terrestrial/freshwater to marine organisms in Mermithidae (Nematoda: Mermithida). *Journal of Helminthology* 96: e33.
  12. Munakata M, Tanaka H, Kakui K. 2022. Taxonomy and natural history of *Cavernocypris hokkaiensis* sp. nov., the first ostracod reported from alpine streams in Japan. *Zoosystematics and Evolution* 98: 117–127.
  13. Okamoto N, Kakui K. 2022. Integrative taxonomy of *Zeuxo* (Crustacea: Peracarida: Tanaidacea) from Japan, with the description of a new species. *Biologia* 77: 2497–2506.
  14. Oya Y, Tsuyuki A, Kajihara H. 2022. Descriptions of two new species of *Armatoplana* (Polycladida: Stylochoplanidae) from the coasts of Japan, with their phylogenetic positions in Leptoplanoidea. *Zootaxa* 5178: 433–452.
  15. Oya Y, Nakajima H, Kajihara H. 2022. A new symbiotic relationship between a polyclad flatworm and a mantis shrimp: description of a new species of *Emprostopharynx*

- (Polycladida: Acotylea) associated with *Lysiosquilla maculata* (Crustacea: Stomatopoda). Marine Biodiversity 52: 46.
16. Shimada D, Kakui K. 2022. Three free-living marine nematodes from Sagami Bay, Japan, with a description of *Wiesoncholaimus jambio* sp. nov. (Nematoda 39: Oncholaimidae). Zoological Science 39: 106–114.
  17. Shiraki S, Shimomura M, Kakui K. 2022. A new neotenous genus and species, *Deltanthura palpus* gen. et sp. nov. (Isopoda, Anthuroidea, Paranthuridae) from Japan, with a revised key to the genera in Paranthuridae. Zoosystematics and Evolution 98: 109–115.
  18. Shiraki S, Shimomura M, Kakui K. 2022. First report of Hyssuridae (Isopoda: Anthuroidea) from Japan, with the description of a new *Kupellonura* species. Nauplius 30: e2022023.
  19. Taylor A, Mortimer K, Jimi N. 2022. Unearthing the diversity of Japanese *Magelona* (Annelida: Magelonidae); three species new to science, and a redescription of *Magelona japonica*. Zootaxa 5196(4): 451–491.
  20. Tsuyuki A, Oya Y, Kajihara H. 2022. Two new species of the marine flatworm *Pericelis* (Platyhelminthes: Polycladida) from southwestern Japan, with an amendment of the generic diagnosis based on phylogenetic inference. Marine Biology Research 17: 946–959.
  21. Tsuyuki A, Kohtsuka H, Hookabe N, Kajihara H. 2022. First record of *Bulaceros porcellanus* Newman & Cannon, 1996 (Platyhelminthes, Polycladida, Cotylea) from Japanese waters, with a revision of the generic diagnosis based on morphology and molecular phylogeny. Plankton and Benthos Research 17: 147–155.
  22. Tsuyuki A, Oya Y, Kajihara H. 2022. Reversible shifts between interstitial and epibenthic habitats in evolutionary history: Molecular phylogeny of the marine flatworm family Boniniidae (Platyhelminthes: Polycladida: Cotylea) with descriptions of two new species. PLoS ONE 17: e0276847.
  23. 角井敬知・宗像みずほ. 2022. 淡水生カイミジンコ *Cryptocandona* sp.の背甲上から見つかったツリガネムシ目繊毛虫について. 小樽市総合博物館紀要 35: 13–16.
  24. 露木葵唯・勝島日向子. 2022. 御蔵島におけるヨイミヤミノヒラムシ *Thysanozoon* sp. (扁形動物門, 多岐腸目, ニセツノヒラムシ科) の初報告. Mikurensis 11: 11–15.
  25. 長谷川尚弘・自見直人・波々伯部夏美. 2022. 和歌山県串本町 (串本・古座) 沿岸域での海産無脊椎動物相 (多毛類、ヒモムシ類、ホヤ類) 調査の報告. ニッチェライフ



## 大原昌宏 教授

### 研究内容の概要

昆虫体系学。(1) 海浜性甲虫群集の分類と生物地理学。東アジアと北米西海岸の海浜性甲虫(エンマムシ科、ガムシ科、ゴミムシダマシ科、ゾウムシ科など)の分類学的研究を行い、アジア・北米間の海浜性甲虫類の群集の種構成差異を明らかにし、両地域間の生物地理学的な分布の成り立ちと種間・属間系統との関係を検討した。科研費(分担)に関わる研究。(2) 北方圏のエンマムシ、陸生ガムシ(昆虫綱、鞘翅目)の分類学・生物地理学的研究。日本から千島、樺太、朝鮮半島にかけて、エンマムシ科(Histeridae)と陸生のガムシ科(Hydrophilidae)について分布、種構成など分類学的・生物地理学的基礎情報の収集を目的とした。特に陸生ガムシは日本北部における先行研究がないため、多くの新知見が得られた。(3) タイプ標本データベース作成。昆虫綱鞘翅目のタイプ標本の画像、原記載データ、ラベルデータに関するデータベースの構築を行った。(4) 博物館におけるバイオメテイクス研究。動植物の持つ能力や形・機能などの特性を把握し、そこからヒントを得て人工的に設計・合成・製造する「生物規範工学」と協力し、博物館に収蔵される膨大な生物標本の利活用を探る先駆的なデータベース開発を行った。

### 原著論文

1. 大原昌宏・中岡利泰・高木大稔・小川直記・菊地波輝・山本ひとみ, 2022. 北海道えりも町豊似湖周辺(ほか)昆虫調査報告. VI. 甲虫類4. えりも研究, (19): 1-4.
2. Ho, Y.-H., and M. Ôhara, 2022. Beetles of the genus *Lewisister* (Coleoptera, Histeridae), with description of a new species from Taiwan. *Zoological Studies*, 61: 31. doi:10.16620/ZS.2022.61-31.
3. Ôhara, M., and K.-J. Ahn, 2022. Description of two new species of Histeridae (Coleoptera) in Korea. *Journal of Aisa-Pacific Entomology*, 25 (2022) 101966. doi.org/10.1016/j.aspen.2022.101966
4. 瑤寺 裕・大原昌宏, 2022. 沖縄諸島屋我地島におけるクロチビエンマムシの記録. *Sayabane*, (n. ser.), (47): 27.
5. Suzumura, A. L., R. Kawauchiya, M. Ôhara, N. Inari and N. Kobayashi, 2022. Records of the supralittoral species of the genus *Cercyon* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra*, Tokyo, (n. ser), 12(1): 79-133.
6. dela Cruz, I. N., and M. Ôhara, 2022. New records and redescription of *Atholus bifrons* (Marseul, 1854) (Coleoptera, Histeridae) from the Ryukyus, Japan and Borneo Island, Indonesia. *Elytra*, Tokyo, (n. ser), 12(2): 237-245.
7. Ôhara, M., and K.-J. Ahn, 2022. Histeridae (Coleoptera) of Chungnam National University Insect Collection, South Korea. *Elytra*, Tokyo, (n. ser), 12(2): 249-264

#### 執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 大原昌宏, 2022. コラム3. 昆虫標本を残す意義. 34 p. 北海道博物館(編), 『北海道博物館 第8回特別展 世界の昆虫 Insect of the world』. 127 pp. 北海道文化放送、北海道新聞社 発行 2022.July.23
2. 大原昌宏, 2022. コラム4. 昆虫分類ができる人材を育てる. 35 p. 北海道博物館(編), 『北海道博物館 第8回特別展 世界の昆虫 Insect of the world』. 127 pp. 北海道文化放送、北海道新聞社 発行 2022.July.23
3. 大原昌宏, 2022. <巻頭言> コロナ2年目、逆境を逆手に. 昆虫（ニューシリーズ）, 25 (1): 1-2.
4. 大原昌宏, 2022. 日本甲虫学会第12回総会 会長挨拶. 甲虫学会ニュースレター, (53): 1-2.
5. 鈴木有紗・小林憲生・大原昌宏, 2023. 海浜性ガムシの分類と分布. 昆虫と自然, 58(3): 10-14.

#### 学会発表

1. 植野晴子・松島肇・大越陽・菊地那樹・大原昌宏・志津木真理子・A. L. Suzumura, 2022. 海水浴場におけるグリーンインフラとしての海岸砂丘の評価. 日本造園学会 2022 年度全国大会. [北海道大学農学部]. 2022 年 6 月 19 日. ポスター.
2. Suzumura, A. L., M. Ôhara & N. Kobayashi, 2022. Review of the northern Pacific genus, *Phaelomela* Reitter, 1916 (Coleoptera, Tenebrionidae). ESA, ESC, and ESBC Joing Annual Meeting. [Vancouver Convention Center]. 2022.Nov.16. Poster.
3. 大越陽・松島肇・根岸淳二郎・大原昌宏・内田典子・平吹喜彦・植野晴子, 2022. 海岸砂州における徘徊性節足動物群集に対する人工構造物の影響. 日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会 3 学会合同大会 ELR2022 つくば. [つくば国際会議場]. 2022 年 9 月 22 日. ポスター.
4. 根岸淳二郎・大越陽・内田典子・大原昌宏・松島肇, 2022. 仙台海岸における海藻自然資源の無脊椎動物利用と分解. 日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会 3 学会合同大会 ELR2022 つくば. [つくば国際会議場]. 2022 年 9 月 22 日. ポスター.

#### 一般講演

1. 丸山宗利・大原昌宏・堀 繁久, 2022. こども昆虫相談室. 北海道博物館 主催（学びの場を提供する事業）. [北海道博物館]. 2022 年 7 月 24 日.[招待講演].
2. 大原昌宏, 2022. 昆虫博士キャンプ, 中学生. 札幌市定山溪自然の村 主催（学びの場を提供する事業）. [札幌市定山溪自然の村]. 2022 年 7 月 31 日, 8 月 7 日.[招待講演].
3. 大原昌宏, 2022. バイオミメティクス研究と博物館. 広島大学東アジア拠点広島コンソーシアムによる GSC 事業 異分野融合シンポジウム. [ZOOM によるオンライン開催]. 2022 年 8 月 11 日.[招待講演].
4. 大原昌宏, 2023. 海浜性 昆虫の視点から、北環太平洋の海岸を見る. 石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク 第6回フォーラム -しめっちフォーラム 2023 湿地と再生可能エネルギー 虫の目、鳥の目、みんなの目. 石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク 主催. [生活 支援型文化施設 コンカリーニョ, 札幌, YouTube ライブ配信]. 2023 年 2 月 18 日.[招待講演].

## 外部資金

1. 【代表】大原昌宏：科学研究費補助金・基盤研究(C)「アジア・北米環太平洋北部における海浜性甲虫群衆の起源と分散」、平成31年1,300千円、令和2年1,560千円、令和3年1,430千円、平成31-令和3年4,290千円（直接経費3,300千円、間接経費990千円）（2019-2021, 2022まで延長）
2. 【分担】大原昌宏：科学研究費補助金・基盤研究(A)「次世代技術と自然史財を高度に活用した広義寄生蜂の多様性情報基盤の構築」2019年15,210千円、2020年11,570千円、2021年10,270千円、2022年8,190千円（直接経費6,300千円、間接経費1,890千円）、令和3年—令和4年45,240千円（直接34,800千円、間接経費10,440千円）代表者：前藤薫（神戸大学・教授）（2019-2022）
3. 【分担】大原昌宏：科学研究費補助金・基盤研究(C)「防潮堤建設が及ぼす海浜性昆虫の種構成及び資源利用の変化」2021年1,430千円、2022年1,430千円（直接経費1,100千円、間接経費330千円）、2023年1,430千円、令和3年—令和6年4,290千円（直接3,300千円、間接経費990千円）代表者：小林憲生（埼玉県立大学・教授）（2021-2024）

## 学会活動

1. 一般社団法人日本昆虫学会：代表理事（会長）（2020—2022）；代議員・監査（2023-継続）；日本産昆虫カタログ編纂委員会委員（2016—継続）
2. 日本甲虫学会：会長（2019-2022）；副会長（2023-継続）
3. 日本動物分類学会：会員（2000-継続）
4. 北海道自然史研究会：会長（2017—継続）
5. Coleopterologist Society: 会員（1994—現在）
6. Association of Systematic Biology Society of the Philippines: 会員（2015-現在）、Editorial Board（2016-現在）

## 社会貢献

1. 国土交通省 河川水辺の国勢調査（天塩川下流・留筋川及び留筋ダム） アドバイザー
2. 国土交通省 河川水辺の国勢調査（天塩川上流及び石狩川上流） アドバイザー
3. 国土交通省 幾春別川ダム、モニタリング計画 アドバイザー
4. 国立科学博物館 地球規模生物多様性情報機構日本ノード運営委員会 委員
5. 北海道環境影響評価審議会 委員
6. 北海道立総合博物館協議会 委員長
7. 北海道希少野生動植物保護対策検討有識者会議昆虫専門部会 構成員
8. 小樽市博物館協議会 委員長
9. 小樽市文化財審議会 委員
10. 北海道新聞社野生生物基金 評議員・助成金審査員
11. 前田一步園財団 助成金審査員

## 湯浅万紀子 教授

### 研究内容の概要

博物館教育学。(1) ミュージアム体験の長期的インパクトを検証する調査研究。日本ではまだ体系的に実施されていないミュージアム体験の長期的インパクトの検証に取り組み、人々の記憶に残るミュージアム体験とその人々とミュージアムとの関わりの変容を調査し、記憶を続く世代へとつなぐためのミュージアム活動の展開方法を研究している。認知面での学習効果にとどまらないミュージアム体験の多様な意味を明らかにすると同時に、ミュージアム活動の意義を検証し、ミュージアム資源を生かした活動への提案を導くための調査研究でもある。(2) 大学博物館における複合教育プログラムの評価に関する調査研究。大学博物館は社会において今後どのような役割を果たしていくべきかを探るために、大学博物館独自のリソースを生かした活動として「複合教育プログラム」に注目した研究を行っている。複合教育プログラムとは、博物館の活動の様々な局面に学生を関与させて教育し、その学生が博物館活動の担い手として来館者とコミュニケーションすることにより更に学習を深化させ、学生と来館者双方に教育的な意味を持つ実践的な教育プログラムである。大学博物館ならではの学生教育とは何かを探り、更にその学生教育の意義をいかに評価すればよいかを研究している。(3) 展示評価に関する調査研究。展示の総括的評価として、主として展示がいかに来館者に受け止められたかについて質的な調査を実施して評価するための研究を行っている。調査手法の検討、質問紙調査の自由記述回答や面接調査のデータの分析方法について研究し、メディア報道との関わり、展示解説を受けた人、展示解説を担った人へのインパクトなどを調査し、展示を多角的に検証する研究を行っている。更に、異なる展示にフィードバックできる指摘を求めて、評価方法を検討している。同時に、来館者プロフィールを継続的に分析することで、博物館の広報活動への示唆を導く。(4) 博物館評価に関する調査研究。前項の展示評価を含めた包括的な博物館評価として、各館独自の使命と設立経緯、社会状況を踏まえた上で、博物館の組織体制、運営形態などを含めた活動のあらゆる局面を評価する手法、特に活動の質を評価するための手法を研究している。(5) 新しいミュージアム像に関する調査研究。博物館の新しい姿、活動を導くために、運営体制の見直し、コレクションや人的資源の流動化、来館者・非来館者との関わり、異分野との協働など、博物館と博物館を取り囲む社会の文化資源を新しい視点で再組織化する研究を行っている。

### 原著論文

1. 藤田良治・湯浅万紀子・藤田貢崇, 2022. タープを活用した教育活動の意義, 愛知淑徳大学論集 創造表現学部篇, 12, 17-29.

### 執筆(著書・総説・解説・報告等)

1. 湯浅万紀子, 2022. 2021年度卒論ポスター発表会, 北海道大学総合博物館ニュース, 44:11.
2. 湯浅万紀子, 2023. 湯浅万紀子教授が第5回大堀哲記念ミュージアム・マネジメント推進賞を受賞, 同上, 45:6.
3. 湯浅万紀子, 2023. 博物館実習, 同上, 45:7.
4. 湯浅万紀子, 2023. 2021年度学生企画ミュージアムグッズ, 同上, 45:9.
5. 湯浅万紀子, 2023. 博物館における北海道大学初任事務職員実地研修, 同上, 45:10.

## 講演

1. 湯浅万紀子, 2022. ミュージアム体験の長期記憶から探るミュージアムの社会的役割, 秋田公立美術大学, 2022年10月31日. 【招待講演】

## 博物館教育研究活動

1. 学生企画ワークショップ「ミュージアム・フォト・ウォーク～みる・きく・はなす 博物館入門講座～」(7月22日・7月24日開催) 指導(2022年度博物館コミュニケーション特論: 学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価)、
2. 2021年度学生企画グッズ指導(2021年度博物館コミュニケーション特論: ミュージアムグッズの開発と評価)、2022年度ミュージアムショップで販売開始。「ゾウ&マンモス風呂敷」、「発掘! ランダムシール 古生物&土器」
3. 2022年度学生企画グッズ指導(2022年度博物館コミュニケーション特論: ミュージアムグッズの開発と評価)、「北大総合博物館ポストカードブック」「地球の46億年の歴史定規」「ミュージアムマグ」「耐水性フィールドノート」「博物館建物をモチーフにしたスノードーム」「化石アイテム入りバスボム」
4. 夏季企画展示「感じる数学 Tangible Math ～ガリレイからポアンカレまで～」 展示解説学生指導
5. 第3回「建築の学生」展 指導
6. 2022年度卒論ポスター発表会 発表・運営指導
7. 博物館における北海道大学初任事務職員実地研修 講義、見学案内、研修時のアテンド

## 外部資金

1. 日本学術振興会科学研究費 基盤(C) 「企業博物館の多様なステークホルダーにおける博物館体験の長期記憶研究に関する研究」令和1～4年度, 研究代表者
2. 日本学術振興会科学研究費 基盤研究(C)「高度な理解促進を目指す獣医学臨床手技映像教材の開発」令和1～4年度, 藤田良治(研究代表者) 研究分担者

## 学会活動

1. 日本ミュージアムマネジメント学会 会員
2. 日本科学教育学会 会員
3. AAM 会員

## 社会貢献

1. 北海道立総合博物館協議会委員
2. 北海道立近代美術館協議会委員

## メディアへの広報(プレスリリースなど)

1. プレスリリース「北大生が企画開発したミュージアムグッズ販売のお知らせ」8月8日
2. テレビ北海道 5時ナビ「学生企画グッズ紹介」8月22日
3. 道新10区「知の情報発信拠点 北大総合博物館 院生がみどころ案内」10月14日
4. 北海道新聞「「建築通して対話を」、授業で制作した模型・図面を展示 一第3回 建築の学生展」10月27日
5. 道新10区「卒業研究 市民に解説（卒論ポスター発表会）」3月3日
6. 道新10区「ミュージアムグッズが面白い」 3月24日

## 小林快次 教授

### 研究内容の概要

古生物学。恐竜の進化や生態についての研究。カムイサウルスをはじめとする鳥脚類恐竜の進化、古生物地理学的な見解から分布のパターンを解明、環境と進化の関係性など。さらに、鳥類を含む獣脚類の進化も研究している。獣脚類における食性の変化と骨格の進化の関連性を研究している。海外のフィールドは、主に米国アラスカ州、モンゴル・ゴビ砂漠地域、カナディアンローキー山脈西部、ウズベキスタンを中心にこなっている。これらのフィールド調査から、アジア大陸と北米大陸の恐竜の多様性比較、北極圏への生理的な適応手段などを研究している。

### 原著論文

1. Kobayashi, Y., Takasaki, R., Fiorillo, R. A., Chinzorig, T., and Hikida, Y. 2022. New therizinosaurid dinosaur from the marine Osoushinai Formation (Upper Cretaceous, Japan) provides insight for function and evolution of therizinosaur claws. *Scientific Reports* 12: 7207. <https://doi.org/10.1038/s41598-022-11063-5>.
2. Song, M., Lee, Y., Zorigt, B., Kobayashi, Y., Park, J., Lee, S., Kim, S., and Lee, K. 2022. A new juvenile *Yamaceratops* (Dinosauria, Ceratopsia) from the Javkhant Formation (Upper Cretaceous) of Mongolia. *PeerJ*, 10:e13176 DOI 10.7717/peerj.13176. <https://doi.org/10.1016/j.cub.2021.03.030>.
3. Fiorillo, A. R., McCarthy, P. J., Kobayashi, Y., and Suarez, M. B. 2022. Cretaceous dinosaurs across Alaska show the role of paleoclimate in structuring ancient large-herbivore populations. *Geosciences* 12(4), 161; <https://doi.org/10.3390/geosciences12040161>.
4. Yoshida, J., Kobayashi, Y., and Fiorillo, A. R. 2022. Evolutionary insights from an anatomical network analysis of the hyolaryngeal apparatus in extant archosaurs (birds and crocodylians). *The Anatomical Records*, <https://doi.org/10.1002/ar.25153>.
5. Takasaki, R. and Kobayashi, Y. 2023. Beak morphology and limb proportions as adaptations of hadrosaurid foraging ecology. *Cretaceous Research* 141: 105361. <https://doi.org/10.1016/j.cretres.2022.105361> 0195-6671.
6. Yoshida, J., Kobayashi, Y., and Norell, M. A. 2023. An ankylosaur larynx provides insights for bird-like vocalization in non-avian dinosaurs. *Communications Biology* 6: 152. <https://doi.org/10.1038/s42003-023-04513-x> | [www.nature.com/commsbio](http://www.nature.com/commsbio).

### 執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 小林快次・田中康平（監修）「ぐんぐん考える力を育むよみきかせ きょうりゅうのお話 20」西東社
2. 小林快次（監修）「新・恐竜骨格図集」イーストプレス
3. 小林快次（執筆）2022年4月16日「大人のための最先端理科 恐竜 恐竜王国モンゴルで見つかった奇跡の化石「格闘恐竜」とは？」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.
4. 小林快次（執筆）2022年6月11日「大人のための最先端理科 恐竜 モンゴルの聖地に君臨したアジ

ア最強の肉食恐竜」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.

5. 小林快次 (執筆) 2022 年 8 月 13 日「大人のための最先端理科 恐竜 70 年ごしの冤罪が晴れた恐竜  
ずる賢い「卵泥棒」の正体」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.
6. 小林快次 (執筆) 2022 年 10 月 22 日「大人のための最先端理科 恐竜 無敵だったはずの最速の恐竜  
モンゴルの化石が教える現実は何?」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.
7. 小林快次 (執筆) 2022 年 12 月 17 日「大人のための最先端理科 恐竜 恐竜の恐竜の“いいとこ取り”  
今世紀最大の「謎の恐竜」解明」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.
8. 小林快次 (執筆) 2023 年 2 月 25 日「大人のための最先端理科 恐竜 北海道の海の地層から発見「大  
きな爪」を持つ恐竜の正体」週刊ダイヤモンド, ダイヤモンド社.

#### 学会発表

1. Tanaka, T., Kobayashi, Y., Lee, Y-N., Sissons, R., Ryan, M., Chinzorig, T., and Tsogtbaatar, K. 2021. 演題「A hesperornithiform (Avialae: Ornithuromorpha) from the Upper Cretaceous Nemegt Formation (lower Maastrichtian) in Mongolia」Canadian Society of Vertebrate Palaeontology (Virtual Meeting) .
2. Junki Yoshida, Atsushi Hori, Yoshitsugu Kobayashi, Michael J. Ryan, Yuji Takakuwa, and Yoshikazu Hasegawa. 2021. 演題「Taxonomy of a new goniopholidid specimen from the Upper Jurassic Morrison Formation and their diversity in North America」Canadian Society of Vertebrate Palaeontology (Virtual Meeting) .
3. 小林快次, 高崎竜司, 久保田克博, アントニー・フィオリロ. 2021 「白亜紀最末期の北阿万層から産出した新たな基盤的ハドロサウルス 科の恐竜がもたらすハドロサウルス科の起源に関する新知見」日本古生物学会 2021 年年会 (岡山県・岡山理科大学 : オンライン)
4. 高崎竜司・小林快次. 2021 「主竜類の胃の進化: 胃石の形状変遷」日本古生物学会 2021 年年会 (岡山県・岡山理科大学 : オンライン)
5. 小林快次. 2021 「大型植物食性獣脚類(テリジノサウルス類とオルニトミモサウルス類)の繁栄と移動 (シンポジウム『モンゴル恐竜研究最前線 —高精度年代層序の確立と白亜紀化石動物相の解明をめざして—』招待講演)」日本古生物学会 2021 年年会 (岡山県・岡山理科大学 : オンライン)
6. Yoshida, J., Hori, A., Kobayashi, Y., Ryan, M.J., Takakuwa, Y., and Hasegawa, Y. 2021. 演題「Morphology and anatomy of the hyoid apparatus in crocodyliforms: the origin of the gular valve in Neosuchia」Society of Vertebrate Paleontology (Virtual Meeting) .
7. Kobayashi, Y., Takasaki, R., Kubota, K., and Fiorillo, A.R. 2021. 演題「A new basal hadrosaurid (Dinosauria: Ornithischia) from the latest Cretaceous Kita-ama Formation in Japan illuminates the origin of hadrosaurids」Society of Vertebrate Paleontology (Virtual Meeting) .
8. J. Park, Y. Lee, Y. Kobayashi, L.L. Jacobs, R. Barsbold, H. Lee, N. Kim, K. Song, M.J. Polcyn. A new specimen of *Tarchia giganteus* from the Upper Cretaceous Nemegt Formation of Mongolia, with evidence of agnostic behavior and niche shifts in armored dinosaurs」Society of Vertebrate

Paleontology (Virtual Meeting) .

9. 田中康平, オタバク・アンワロフ, ダーラ・ゼレニツキー, アクマジョン・アーメシャエフ, 小林快次.  
2022 「ウズベキスタン共和国の上部白亜系ピセクティ層から産出したカルカロドントサウルス類恐竜」  
日本古生物学会 171 回例会 (愛知県・名古屋大学: オンライン)

#### 一般講演

1. 7月17日(日)、「最新恐竜研究 in 2022」講演、旭川科学館サイバル.
2. 7月18日(月)「バーチャル美ら海水族館」講演
3. 8月3日(水)、「JpGU 2021 インタビューイベント」講演、全国理科教育大会.
4. 9月4日(日)、「最新恐竜研究 in 2022」講演洲本市文化課体育館文化ホール.
5. 10月29日(土)、「最新恐竜研究 in 2022」講演北海道中学理科研究会.
6. 10月30日(日)、「恐竜時代最末期の日本」講演兵庫県立人と自然の博物館.
7. 3月11日(土) 第3回土曜市民セミナー「恐竜化石調査 アラスカからモンゴルへ」北海道大学総合博物館

#### テレビ・ラジオ等出演

1. 5月24日(火)、NHK「NHK アカデミア」出演
2. 5月15日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
3. 5月29日(日)、NHK「週間まるわかりニュース」出演
4. 7月10日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
5. 7月31日(日)、テレビ愛知「サンデージャーナル」出演
6. 8月5日(金)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
7. 8月21日(日)、NHK ラジオ「トーキングウィズ松尾堂 恐竜国・日本に心躍らせる」出演
8. 10月2日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
9. 11月8日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
10. 12月28日(水)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
11. 12月28日(水)、NHKBS プレミアム「発掘ロストワールド 恐竜の聖地ゴビ砂漠」出演
12. 2月3日(金)、STV「どさんこワイド」出演
13. 2月5日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
14. 3月2日(火)、NHK BS1「Japanology Plus (恐竜)」出演
15. 3月8日(水)、テレビ東京系列「60秒で学べる news」出演
16. 3月12日(日)、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」出演
17. 3月21日(火)、NHK スペシャル「恐竜超世界2 前編」出演
18. 3月26日(日)、NHK「ダーウィンが来た! 隕石衝突! どうする恐竜」出演
19. 3月26日(日)、NHK スペシャル「恐竜超世界2 後編」出演

#### 学会活動

1. 日本古生物学会 評議員
2. Society of Vertebrate Paleontology 会員

#### 社会貢献

1. 旭川市科学館・サイパル 顧問
2. 鶴川高校魅力化コンソーシアム 顧問

#### メディアへの広報（プレスリリースなど）

1. プレスリリース 5月9日「北海道中川町の恐竜化石を新属新種「パラリテリジノサウルス・ジャポニクス」と命名～恐竜類テリジノサウルス科の爪の進化～」
2. プレスリリース 2月16日「世界初！恐竜の喉化石を発見～恐竜類における音声進化の第一歩～」

## 江田真毅 教授

### 研究内容の概要

動物考古学。国内外の遺跡から出土した鳥類の骨を分析し、資料中に含まれる分類群の構成や解体・加工の痕跡などに基づいて各遺跡を形成した人々の活動域や狩猟技術、生業の季節性などについて動物考古学の観点から検討するとともに、考古動物学的視点から過去の鳥類相を明らかにしている。また、東アジア・東南アジアにおける家禽飼育の歴史の解明のために、中国、韓国、タイ、ベトナムなどで共同研究を実施し、東アジア・東南アジア各地の遺跡から出土した鳥骨も分析している。一方、特別天然記念物の海鳥、アホウドリ (*Phoebastria albatrus*) の分類と保全のための研究を進め、鳥島と尖閣諸島で生まれたアホウドリは遺伝的、生態的、形態的観点から別種であることを明らかにし、異なる保全単位として管理すべきことを提言してきている。近年は骨中のコラーゲンタンパクの大部分を占める I 型コラーゲンのアミノ酸配列の解析から、遺跡資料の種同定に有効なアミノ酸配列の特定を目指した研究を実施している。さらに、小林教授と共同で恐竜化石に由来するアミノ酸を解析する研究にも着手している。

### 原著論文

1. Takase, K., Eda, M., Etnier, M. A., Lebedintsev, A. I. (in press). Late Holocene animal use in Southern Kamchatka. **Arctic Anthropology**
2. Eda, M., Izumi, H., Yoneda, M., Fujita, S. 2023. The earliest evidence of domestic chickens in the Japanese Archipelago. **Frontiers in Earth Science**, 11. <https://doi.org/10.3389/feart.2023.1104535>
3. Eda, M., Izumi, H., Konno, S., Konno, M., Watanabe, Y., Sato, F. 2023. Evidence of historical pairing between two cryptic species of Short-tailed Albatross. **Avian Conservation and Ecology**, 18, 3, <https://doi.org/10.5751/ACE-02353-180103>
4. Waki, T., Eda, M., Shimano, S. 2023. Two feather mite species (Alloptidae, Freyanidae) associated with the Laysan Albatross *Phoebastria immutabilis* (Rothschild, 1893) (Diomedidae) from Japanese coastal waters. **Systematic and Applied Acarology**, 23, 63-76. DOI: <https://doi.org/10.11158/saa.28.1.7>
5. Hsu, K., Yamane, Y., Eda, M. 2022. Chickens consumed in early modern samurai residences: A study of bird remains from the Ichigaya Honmura-cho site, Tokyo, Japan. **International Journal of Osteoarchaeology**, 32, 889-903. <https://doi.org/10.1002/oa.3124>
6. Eda, M. 2022. The osteological microevolution of red junglefowl and domestic fowl under the domestication process. **Quaternary International**, 626-627, 14-21, <https://doi.org/10.1016/j.quaint.2020.10.001>
7. 江田真毅 2022. 「中世日本におけるニワトリの形態：大友府内町跡出土資料の検討から」北海道大学考古学研究室研究紀要, 2, 43-53 pp. <https://doi.org/10.14943/105607>

#### 執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 志賀健司著, 江田真毅・小林快次監修 2022.『作ろう！フライドチキンの骨格標本 よくわかる恐竜と鳥の骨学入門』, 緑書房.
2. 江田真毅 2022.「ニワトリのはじまりと広がり」菊地大樹・丸山真史編『家畜の考古学 古代アジアの東西交流』, 雄山閣, 133-144 pp.
3. 阿部常樹, 江田真毅 2023.「経済学研究科棟地点出土の動物遺体」東京大学埋蔵文化財調査室編『東京大学本郷構内の遺跡 経済学研究科棟地点』東京大学埋蔵文化財調査室, 225-283 pp.
4. 阿部常樹, 江田真毅, 大内利紗 2022.「大村藩下屋敷における動物利用の様相—医科学研究所附属病院 A 棟地点出土の動物遺体—」東京大学埋蔵文化財調査室編『東京大学白金台構内の遺跡（港区 No.135 遺跡） 医科学研究所附属病院 A 棟地点 研究編』, 東京大学埋蔵文化財調査室, 67-122 pp.

#### 学会発表

1. Conrad, C., Jones, E. L., Shoocongdej, R., Wattanapituksakul, A., Thongcharoenchaikit, C., Tumpeesuwan, S., Eda M., Mheetong, S. 2022. Hunter-Gatherer subsistence during the terminal Pleistocene to middle Holocene in Northwest Thailand. The 22nd Congress of the Indo-Pacific Prehistory Association. Chiang Mai, Thailand.
2. 許開軒, 丸山真史, 江田真毅 2022.「江戸時代の大坂城下町にいたのはどんな鳩？—遺跡出土ハト科資料からの検討—」日本鳥学会 2022 年度大会（東京農業大学北海道オホーツクキャンパス）
3. 江田真毅 2022.「考古学資料からみた日本のニワトリ」生き物文化誌学会第 84 回例会 日本鶏例会（オンライン）
4. 江田真毅 2022.「中世日本のニワトリの形態—大分県中世大友府内町跡出土資料からの検討—」動物考古学会第 9 回大会（豊橋市自然史博物館）
5. 山崎京美, 黒住耐二, 江田真毅, 谷口康浩 2022.「群馬県居家以岩陰遺跡における縄文早期押型文期・条痕文期の動物遺存体および骨角貝製品 2017・18 年資料をもとに」動物考古学会第 9 回大会（豊橋市自然史博物館）
6. 許開軒, 江田真毅 2022.「出島オランダ商館のニワトリ」動物考古学会第 9 回大会（豊橋市自然史博物館）
7. Eda, M. 2022. Goose domestication preceded chicken domestication!?! Chicken Journal Club (online)

#### 一般講演

1. 6月19日（土）「アホウドリとセンカクアホウドリは何が違うのか？」世界アルバトロスデー & シーバードウィーク イベント 2022 オンライン.

#### テレビ・ラジオ等出演

なし

## 外部資金

1. 科学研究費助成事業国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))「コラーゲンタンパクの質量分析による東南アジアにおける家禽飼育の起源と拡散の解明」研究代表者
2. 科学研究費助成事業基盤研究(B)「東アジアにおける家禽飼育の起源と拡散の解明」研究代表者
3. 科学研究費助成事業学術変革領域研究(A)「動物考古学から探るユーラシア家畜文化のダイナミズム」研究分担者
4. 科学研究費助成事業国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「東南アジア大陸部における後期更新世人類の環境適応の解明」研究分担者
5. 科学研究費助成事業基盤研究(C)「隠蔽種が明らかとなった特別天然記念物アホウドリの生殖隔離に関連する行動学的研究」研究分担者
6. 科学研究費助成事業基盤研究(B)「日本列島で土器を使い始めた人々の形態・遺伝子・食性・健康状態を解明する」研究分担者
7. 科学研究費助成事業基盤研究(B)「総合資料学にもとづく古代アンデス文明の社会統合の解明」研究分担者

## 学会活動

日本動物考古学会 編集委員長

日本鳥学会 英文誌編集委員

日本鳥学会 基金運営委員会副委員長

ICAZ-ASWA-Tokyo Organizing committee

## メディアへの広報（プレスリリースなど）

1. 2月16日（木）「特別天然記念物・アホウドリ2種の交雑の歴史を解明～求められる2種それぞれの独自性を保つ保全政策～」

## 阿部剛史 准教授

### 研究内容の概要

海藻分類学。(1) 紅藻ソゾ属および近縁属の系統分類学的研究と化学成分研究。広義ソゾ属 (*Chondrophycus*, *Laurencia*, *Laurenciella*, *Osmundea*, *Palisada*, *Yuzurua*) の系統分類学的研究を、形態形質に加えて分子系統、培養実験、成分分類学的手法を用いて進めている。また、ウラソゾの種内分化(ケミカルレース)における個体群構造について、分子系統学的手法を用いて説明を進めた。

(2) 北方コンブ類の系統分類学的研究。資料部との共同研究として、サハリン・カムチャツカおよび日本産の材料を用い、北方コンブ類の系統分類学的研究を進めている。(3) 日本及び東南アジア・極東ロシアの海藻相に関する研究。上記の2群に限らず東南アジアから日本を経て極東ロシアに至る北西太平洋の海藻相についての研究をおこなっている。(4) 日本海における寒冷適応進化・多様化に関する共同研究。日本海をはじめとする縁海で、氷期に分断された海域で寒冷適応化・種分化が生じ、次の間氷期に北方の寒冷海域に進出するという「日本海多様化工場説」を、神谷隆宏教授(金沢大)が貝形虫の研究から提唱した。この説を海藻類において検証する共同研究をおこなっている。(5) 標本に含まれる放射性同位体に着目した共同研究。数十年から百年以上前に採集された海藻標本が多数収蔵されている当館の特徴を活かし、磯焼け現象が見られる前の時代における窒素源の推定や、核実験以前の本来の沃素同位体比の推定など、分類学以外の分野に海藻標本を活用する共同研究をおこなっている。

## 田城文人 助教

### 研究内容の概要

魚類分類学。(1) 深海性魚類の分類学的・生物地理学的研究。基礎生物学的な情報に乏しい深海性魚類を対象として、それらの種多様性や進化史を形態・分子データに基づき多角的な手法で調査している。中でも、水産上重要種は資源管理等の側面からも正確な基礎情報の把握が求められる。そこで、現在はウナギ目を中心に、水産重要種を多く含む分類群を主な研究対象としている。(2) 日本海産浅海性魚類の分類学・生物地理学的研究。日本列島は太平洋・日本海・オホーツク海・東シナ海に囲まれるが、日本海に産する魚類の種多様性は未解明な状況にある。そこで、とくに研究が進んでいない浅海性魚類を対象として、日本海産魚類の種多様性の解明を進めている。同時に、過去(所蔵標本)から現在(新規標本)までの標本を活用することで、種多様性の時系列的な変動に関する研究も実施している。(3) アングマン海産深海性魚類の分類学的研究。アングマン海(東部インド洋)に分布する深海性魚類を対象として、それらの分類学的な研究を実施している。標本調査に際しては、標本を保有するタイ王国プーケットの研究施設を訪問し、現地スタッフらに資料の維持・管理を指導している。(4) 北海道産魚類のDNA解析用試料・写真インベントリーの構築。水産科学館には24万点の魚類標本があるが、形態観察を主用途とする標本であった。近年は北方系魚類の集団遺伝解析も盛んに実施されつつあり、他機関からの利用要望も多いことから、各種10個体を目安にしてDNA解析用の資料を蓄積させている。加えて、標本化前の色彩保存・記録を目的として、全ての種で生鮮時写真を撮影し、写真資料として保管している。

### 原著論文

1. Kai, Y.\*, Otani, A., Misawa, R., Frable, B. W. and Tashiro, F. 2022. First Records of a Rare Deep-sea Anglerfish, *Himantolophus azurlucens*, from the Western North Pacific, with Comments on the DNA Barcodes of the Genus (Lophiiformes: Himantolophidae). *Species Diversity*, 27: 285–292.
2. Tashiro, F\* and Chen, W.-J. 2022. *Ilyophis singularis* (Synphobranchidae; Ilyophinae), a new deep-sea eel from the South China Sea. *Ichthyological Research*.  
<https://doi.org/10.1007/s10228-022-00887-w>.
3. 奥 香菜美・田城文人\*・河崎誠記・甲斐嘉晃. 2023. 京都府で記録されたアヤマエビス(イトウダイ目イトウダイ科)とアオブダイ(バラ目ブダイ科). *タクサ*, 54: 42–48.

### 執筆(著書・総説・解説・報告等)

1. 田城文人. 2022. 魚市場調査—多様性を見つめ水産業のリアルを聞く. P. 203. 京都大学舞鶴水産実験所 50 周年記念出版編集委員会(編). 里海フィールド科学 —京都の海に学ぶ人と自然のつながり—. 京都大学学術出版会, 京都.
3. 田城文人. 2022. おしゃべりな標本たち 44 「オシヨロガレイ」. 北海道新聞, 夕刊, 2022.6.11.

### 学会発表

1. Toshio Kawai, Fumihito Tashiro, Hisashi Imamura, Naohide Nakayama, Katsuya Kimura, Saki Kishimoto, Tetsuro Senda, Kota Kamiyama, Kota Obata, Kohei Mita, Charatsee Aungtonya and Surapong Banchongmanee. 2022. Preliminary Taxonomic Studies of Deep-sea Fishes Collected from Andaman Sea by the BIOSHELF Project. The 3rd International Symposium on Natural Science: Natural Resource Sustainability and Peoples Responsibility for Society. 1 –2 Dec. 2022. Poster presentation.
2. 小幡光汰・河合俊郎・今村央・田城文人. 2022. カレイ目ペロガレイ科の共有派生形質および系統類縁関係. 2022 年度日本魚類学会年会 (大阪), 2022 年 9 月 18 日-19 日, ポスター発表 (オンライン).
3. 樋口淳也・河合俊郎・今村 央・田城文人. 2022. 形態形質に基づくソコホウボウ亜科魚類 (Triglidae: Pterygotriglinae) の系統関係. 日本動物分類学会第 57 回東京大会, 2022 年 6 月 4 日-5 日, ポスター発表.

#### 招待講演

1. 田城文人. 2022. 京都の海を保存する – 未来につなぐ魚類標本 –. 第 11 回水産海洋学会日本海研究集会 / 京大ウィークス 2022 「京都の海の魅力と不思議」シンポジウム, 2022 年 10 月 29 日, 京都府舞鶴市商工観光センター.

#### 外部資金

1. 科学研究費助成事業基盤研究(C)「深海底生性魚類の種多様性評価：コスモポリタンは真実か？」研究代表者

#### 学会活動

1. 日本魚類学会 代議員
2. 日本魚類学会 編集委員 (和文誌主任)

## 首藤光太郎 助教

### 研究内容の概要

植物体系学。(1) ツツジ科イチヤクソウ属を用いた植物の菌従属栄養性の進化。ツツジ科イチヤクソウ属には葉が縮小しほぼ完全な菌従属栄養性をもつヒトツバイチヤクソウと、これに近縁な普通葉をもつイチヤクソウが知られている。両者は近縁な関係間で異なる菌従属栄養性を示すことから、菌従属栄養植物の進化過程の研究に有用な材料であり、これらの系統・分類・進化学的な研究を行っている。(2) 日本国内の水生植物相に関する研究。国内の水生植物は、およそ4割の種が環境省のレッドリストに掲載されており、全国的に減少傾向にある。その一方で、国内における水生植物の分布状況は十分に把握されていない。自然湖沼・ため池・河川といった日本国内の水辺を巡り、水生植物相調査、分類学的研究、調査手法について研究を行っている。(3) 植物標本の収集および活用に関する研究。分類群・地域環境問わず日常的に植物標本を収集・整理し、陸上植物標本庫(SAPS)の蓄積を図っている。これらのコレクションや既存の標本を活用し、国内産植物の分類や分布の整理を行う。(4) 北海道の維管束植物相に関する研究。北海道は国内の都道府県の中で最も広く未踏地も多いことから、他の都道府県と比べ植物相の解明が不十分である。道内における希少種などの特筆すべき種の新産地やその生育および分布状況、一定範囲の植物相などを研究する。

### 原著論文 ※査読のあるもの

1. Tamura S, Takahashi T, Shutoh K, Sato K, Shimamura T, Nakamura K. 2022. Lectotypification of *Saxifraga yuparensis* Nosaka (Saxifragaceae). *Phytotaxa* 543(1): 95–98.
2. Yano O, Shutoh K, Kato Y, Ikeda H. 2022. Lectotypification of *Carex* (Cyperaceae) described by Dr. Shigeo Akiyama in the Herbarium of Hokkaido University Museum (SAPS) (I). *Journal of Japanese Botany* 97(3): 156–166.
3. Nakagawa H, Nagamasu H, Nemoto S, Fuse S, Ebihara A, Shutoh K. 2022. *Leymus komarovii* (Triticeae, Poaceae) in Japan. *Acta phytotaxonomica et geobotanica* 73(2): 151–157.
4. Nakagawa H, Sato K, Shutoh K. 2022. Rediscovery of *Silene harae* Nakai (Caryophyllaceae) from Hokkaido, Japan. *Journal of Japanese Botany* 97(4): 232–235.
5. Shutoh K, Hirose T, Shibahara T, Yamazaki M, Shiga T. 2022. Obtaining new records of critically endangered *Potamogeton praelongus* (Potamogetonaceae) depending on groundwater springs in northern coastal areas of Hokkaido, Japan. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity* 15(4): 665–670.
6. 中川博之, 佐藤謙, 首藤光太郎. 2022. タカネタチイチゴツナギ *Poa glauca* Vahl (イネ科) の北海道新産を確認する. *植物研究雑誌* 97(4): 236–240.
7. 中川博之, 首藤光太郎, 佐藤謙, 黒沢高秀. 2022. 大雪山系富良野岳で確認されたツンドラスズメノヒエ (イグサ科). *植物研究雑誌* 97(6): 329–335.

### 執筆 (著書・総説・解説・報告等) ※査読のない研究会誌や紀要等で発表した原著論文を含む

1. 崎尾均, 山本聡子, 川西基博, 中野陽介, 首藤光太郎, 丸尾文乃. 2022. 沼ノ平地域の植物相. 只見

の自然 只見の自然 只見町ブナセンター紀要 (10): 63-79.

2. 渡辺智美, **首藤光太郎**, 薄葉満, 高橋真希, 黒沢高秀. 2022. 磐梯朝日国立公園裏磐梯松原湖における 2004~2016 年の水生維管束植物相. 福島大学地域創造 34(1): 87-98.
3. **首藤光太郎**, 山崎真実, 宮本誠一郎, 村上賢治, 佐藤謙. 2023. 礼文島久種湖の水生植物相. 水草研究会誌 (114): 1-9.
4. 中川博之, **首藤光太郎**, 佐藤謙. 2023. 大雪山系朝陽山の維管束植物相. 旭川市北邦野草園研究報告 (11): 19-35.
5. 中川博之, **首藤光太郎**. 2023. アイヌムギ (イネ科) の再同定の経緯および近縁種アズマガヤとの比較. 旭川市北邦野草園研究報告 (11): 1-6.
6. **首藤光太郎**. 2022. 水草研究会 2021 年オンライン総会・研究発表会. 水草研究会誌(113): 65-67.
7. **首藤光太郎**. 2023. 水草研究会第 44 回全国集会 (オンライン) の催行記録. 水草研究会誌 (114): 63-66.

#### 学会発表 (\*演者)

1. \***首藤光太郎**, 山崎真実, 佐久間春子, 富士田裕子. 北海道新産のゴハリマツモと発見にまつわるよもやま話. 水草研究会第 44 回全国集会 (2022 年 8 月, オンライン)
2. \*李裕梨, 内藤芳香, 加藤将, **首藤光太郎**, 陶山佳久, 志賀隆. 日本のヒンジモは全て同じクローンか? : ゲノム縮約情報に基づく遺伝的多様性の評価. 水草研究会第 44 回全国集会 (2022 年 8 月, オンライン)
3. 中里清孝, 山崎真実, 中村剛, \***首藤光太郎**. ヒルムシロ属新雑種と複数の北海道新産種を含む茨戸川の水生植物相. 日本植物分類学会第 22 回大会 (2022 年 3 月, 千葉)

#### 一般講演

1. \***首藤光太郎**. ツツジ科イチヤクソウ亜科で生じた菌従属栄養進化からわかったこと・まだわかっていないこと. 京都大学生態研セミナー (2022 年 4 月, オンライン)
2. \***首藤光太郎**. SNS から札幌で発見! 変わり者のイチヤクソウ. 札幌市博物館活動センターミュージアムトーク (2022 年 12 月, 札幌)
3. \***首藤光太郎**. つがるの無名池沼, 見つけた水草は希少, しかも多様. 公開シンポジウム: 津軽半島の自然~現在 (いま), これから~ (2023 年 2 月, つがる)
4. \***首藤光太郎**. 2022 年水生植物相調査の成果概説~久種湖, 茨戸川, 半月湖~. 北方山草会総会・講演会 (2023 年 3 月, 札幌)

#### テレビ・ラジオ等出演

1. The JR Hokkaido 11 月号 特集「北海道・境目の物語—見えないラインに、いのち輝く」.

#### 外部資金

1. 科学研究費補助金基盤研究(B)「収蔵施設および分類群横断的調査に基づく博物館標本種子の発芽可

能性の総合評価」, 研究分担者, 300,000 円

2. 科学研究費研究活動スタート支援 「イチヤクソウ亜科で生じた菌従属栄養性進化の定量的な追跡」,  
研究代表者 ※令和 2 年度から新型コロナウイルス感染拡大のため延長

#### 学会活動

1. 日本植物分類学会 研究・普及推進委員会委員 (2019 年～現在)
2. 水草研究会 事務局 (2021 年～現在)
3. 水草研究会 幹事 (2019 年～現在)
4. 東北植物研究会『東北植物研究』編集委員 (2015 年度～)
5. 水草研究会 水草研究会第 44 回全国集会実行委員 (2022 年 8 月)
6. 日本植物学会第 87 回大会実行委員 (2022 年度～)

#### メディアへの広報 (プレスリリースなど)

1. 2022 年 7 月 20 日 誰でも利用できる植物標本庫 オープン・ハーバリウム～北海道大学総合博物館  
植物標本の展示がリニューアル～
2. 2022 年 8 月 9 日 日本産アイヌムギ (イネ科) の正体を解明～国内で初めて集団を確認、分類や分  
布を整理～
3. 2022 年 9 月 22 日 「水草の王様」希少種ナガバエビモの新産地を発見～道北地方に比較的広く現  
存する可能性を示唆～

## 北野一平 助教

### 研究内容の概要

地質学および岩石鉱物学。変成岩の形成過程や起源・帰属についての研究。南極やスリランカといった Gondwana 超大陸の形成に伴う大陸衝突帯に位置していた変成岩を調査・分析し、①変成岩の元々の岩石である原岩の種類・形成テクトニクス場・形成年代を推定し、その原岩の起源・帰属を明らかにする、②変成岩が経験した変成作用の温度圧力時間履歴を解読し、当該地域における変成過程のテクトニクスを復元する。また、国内では、日本列島最古級の地質体である黒瀬川構造帯、長門構造帯、三郡蓮華帯の変成岩および関連する深成岩を主な対象として分析し、日本列島の初期の発達史を研究している。そのほかにも、日高山脈を占める日高変成帯など道内の地質体や、ベトナムの変成岩類の研究にも着手し始めている。

### 原著論文

1. Boldbaatar, D., Osanai, Y., Nakano, N., Adachi, T., Sereenen, J., Kitano, I., Syeryekkhaan, K. (2022) Geochronology and geochemistry of granitoids from the Mongolian Altai. ***Journal of Mineralogical and Petrological Sciences***, 116, 6, 293–308.
2. Kitano, I., Osanai, Y., Nakano, N., Kato, R., Bui, T.S.V. (2023) U–Pb zircon ages of metamorphic rocks and granitoids from the Nagato Tectonic Zone in Yamaguchi, southwest Japan: Implication for the geological correlation with the Kurosegawa Tectonic Belt. ***Journal of Mineralogical and Petrological Sciences***, 118, 1, doi:10.2465/jmps.220630.

### 執筆（著書・総説・解説・報告等）

1. 北野一平. 2023. 層状片麻岩. 北海道新聞（夕刊）おしゃべりな標本たち.

### 学会発表

1. 北野一平. 2022. 北関東栃木県西部の足尾帯から見出された片麻岩の記載岩石学的特徴と地質学的意義. 日本地質学会第129年学術大会（東京都・早稲田大学：ハイブリッド）
2. 小山内康人, 中野伸彦, 北野一平, 大和田正明, Bui Thi Sinh Vuong, Boldbaatar Dolzodmaa. 2022. 九州黒瀬川構造帯・超高温変ハンレイ岩類の変成作用と変成年代. 日本鉱物科学会2022年年会（新潟県・新潟大学：ハイブリッド）
3. Kitano, I., Bui, T.S.V., Osanai, Y., Nakano, N., Pham, B., Hokada, T. 2022. The pressure-temperature conditions of high-grade pelitic gneisses in the Dai Loc Complex, Truong Son Belt, central Vietnam. The Thirteenth Symposium on Polar Science (Virtual Meeting).
4. Hokada, T., Baba, S., Kamei, A., Kitano, I., Horie, K., Takehara, M. 2022. The Western Rayner Complex – connection between Dronning Maud Land and Enderby Land, East Antarctica. The Thirteenth Symposium on Polar Science (Virtual Meeting).
5. Osanai, Y., Kitano, I. (2023) Hf-isotope of UHT metamorphic rocks from the Napier Complex,

East Antarctica: How to relate with Sri Lankan Highland Complex? 39th Annual Technical Sessions and Annual General Meeting of Geological Society of Sri Lanka (GSSL). (Plenary Talk)

#### 一般講演

1. 14th June, 2022, Special presentation in the Institute of Geological Sciences, Vietnam Academy of Science and Technology "Zircon chronology for plutono-metamorphic complexes in Sri Lanka, and East Antarctica", The Vietnam Academy of Science and Technology.
2. 令和4年10月28日, ジルコンの可能性 ～地球史解説・資源地質への貢献～, 第8回北大部局横断シンポジウム.
3. 令和5年1月20日, 第1回土曜市民セミナー「コロナ禍での地質学・岩石学研究一例」, 北海道大学総合博物館.

#### テレビ・ラジオ等出演

1. ウォッチング札幌 NEXT100 (TVh) 「北海道大学総合博物館の魅力を深掘りせよ」

#### 学会活動

1. 日本地質学会 会員
2. 日本鉱物科学会 会員
3. 南極地質研究委員会 委員

#### 博物館教育研究活動

1. 2022年度学生企画グッズ指導 (2022年度博物館コミュニケーション特論: ミュージアムグッズの開発と評価)、「北大総合博物館ポストカードブック」「地球の46億年の歴史定規」「ミュージアムマグ」「耐水性フィールドノート」「博物館建物をモチーフにしたスノードーム」「化石アイテム入りバスボム」
2. 2022年度卒論ポスター発表会 発表・運営指導

#### 社会貢献

1. 小惑星リュウグウのサンプルレプリカ展示 (6/12～9/4)
2. FDA 機内誌 2023 春号特集「北海道 再発見の旅」取材 (10/4)
3. ウォッチング札幌 NEXT100 (TVh) 取材 (10/20)
4. ぶらんとマガジン社雑誌「スコブル」取材 (2/18)

#### メディアへの広報 (プレスリリースなど)

1. 北海道新聞 (夕刊) おしゃべりな標本たち「層状片麻岩」(1/14)
2. プレスリリース (1/18) 「長門構造帯は日本最古級の地質体の一部～日本列島初期の基盤岩の起源と形成史の解明に貢献～」

賞罰

1. 第8回北大部局横断シンポジウムベストポスター賞（10/28）

## IV. 教育

### 教育分野の取り組み

- 博物館教員は、全学教育・大学院共通授業、学芸員関連科目と博物館実習を主担当や分担を行っており、教育に大きく貢献している。
- 博物館独自の教育プログラムである、ミュージアムマイスター認定コースとパラタクソノミスト養成講座を行っており、多彩に多次元に北海道大学の院生や学生の質向上に努めている。
- 各教員は、他部局を兼務しており、院生や学生の研究指導をし、各分野の研究レベル向上に貢献している。

### A 全学教育・大学院共通授業、学芸員関連科目と博物館実習

<b>学芸員養成科目</b>	
博物館資料保存論	大原昌宏（分担）
博物館教育論	湯浅万紀子（分担）
博物館資料論	阿部剛史（分担）
博物館実習（事前事後指導）	大原昌宏（分担）
博物館実習（館務実習）	湯浅万紀子、博物館教員全員、（小澤丈夫、近藤誠司、越前谷宏紀）、事務（井上猛）
博物館展示論	小林快次（分担）、首藤光太郎（分担）、北野一平（分担）
<b>全学教育</b>	
一般教育演習「モノ・コト・ヒト」	阿部剛史（主担当）、博物館教員全員
<b>大学院教育</b>	
大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅰ」	湯浅万紀子
大学院共通授業「博物館コミュニケーション特論Ⅲ」	湯浅万紀子
大学院共通授業「博物館学特別講義Ⅰ」	首藤光太郎（主担当）、北野一平、大原昌宏、小林快次、阿部剛史

### B ミュージアムマイスター認定コース

ミュージアムマイスター認定コースは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力をもち、自己評価の視点を身につけた北大生を認定する、学内のさまざまな部局の協力を得て展開している総合博物館独自の教育システムである。

担当教員：湯浅万紀子、北野一平、小林快次、首藤光太郎

活動内容：以下の三段階で開講科目を設置している。

(1) 導入科目：環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。

また、博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。

(2) ステップアップ科目：実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。さらに博物館活動と運営について理解を深める科目。

(3) 社会体験型科目：博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。

(a) 「感じる数学 Tangible Math ～ガリレイからポアンカレまで～」企画展展示解説

開催日：令和4年7月30日(土)～9月25日(日)

内容：事前に担当教員から展示内容と展示解説について説明を受け、会期中6回の解説を行い、毎回ミニレポートを担当教員に提出してフィードバックを得て次回の解説に活かした。中間報告会と最終報告会では、他参加学生の解説を参考にしたり、担当教員からアドバイスを受けた。

参加学生：7名(文学部4年生・文学部3年生・工学部3年生・工学部1年生・法学部2年生各1名、総合教育部1年生2名)

(b) 卒論ポスター発表会での発表

開催日：令和5年3月4日(土)・5日(日)

会場：総合博物館1階 知の交流ホール

内容：ガイダンスと3回の中間発表会、開催前日のリハーサルを経て、卒論を市民向けの1枚のポスターにまとめ、市民と審査員に向けて説明し、質疑応答を行った。

参加学生：5名(理学部3名、工学部2名)

受賞者：最優秀賞；増田啓佑(工学部)、優秀賞；矢倉鉄平(理学部)、SDGs賞；高橋陸(工学部)、ミュージアム・マイスター賞；伊藤政矩(理学部)、来館者賞；大野真緒(理学部)

(c) 卒論ポスター発表会の運営

開催日と会場：同上

内容：広報ポスター(学内・学外向け)の制作・掲示依頼、中間発表会への参加、発表会プログラムの制作、コロナ禍での運営方法の検討、2日間の発表会の運営

参加学生：7名(文学部3年生・理学部2年生・工学部2年生各1名、工学部3年生・総合教育部1年生各2名)

## C パラタクソノミスト養成講座

本養成講座は、北大生を対象にしており、一般市民も参加できるものである。受講することによって、学術標本やサンプルを正しく同定できる能力を持つことを目的とする。また、標本の研究や教育的面の価値や重要性を認識し、当館に収蔵されている学術標本を利活用しやすいように整備する人口を増やすことを目的としている。本年度は、コロナの影響もあり、開催は見送った。

## D 各教員が指導する院生や学生

総合博物館の教員は、他の部局の兼任を勤めており、院生や学部生を指導・教育しており、大学の研究と教育の質向上に大きく貢献している。以下がそのリストとなる。

氏名	学年	所属	担当教員
久保孝太	D3	理学院(S203)	小林快次
清水 洲平	D3	理学部(S203)	小林快次
Xuanyu Zhou	D3	理学部(S203)	小林快次
宇津木洋平	D2	理学部(S203)	小林快次
田中美羽	D1	理学院(S203)	小林快次
高田健太郎	D1	理学部(S203)	小林快次
守屋友一郎	M2	理学部(S203)	小林快次
三嶋一輝	M2	理学部(S203)	小林快次
大藪隼平	M2	理学部(S203)	小林快次
大村 颯	M1	理学部(S204)	小林快次
川本一陽	M1	理学部(S205)	小林快次
東 祐大	M1	理学部(S206)	小林快次
堤 裕規	M1	理学部(S207)	小林快次
大野真緒	B4	理学部(S206)	小林快次
伊藤政矩	B4	理学部(S206)	小林快次
矢倉鉄平	B4	理学部(S206)	小林快次
能瀬晴菜	D3	農学院 (S203)	大原昌宏
鈴木アリサ	D3	農学院 (S203)	大原昌宏
瑤寺 裕	D3	農学院 (S203)	大原昌宏
菊地那樹	D3	農学院 (S203)	大原昌宏
土門駿介	M2	農学院 (S203)	大原昌宏
齊藤 元	M2	農学院 (S203)	大原昌宏
森合晴紀	B4	農学院 (S203)	大原昌宏
西村涼太	B4	農学院 (S203)	大原昌宏
澤田昌恭	B4	農学院 (S203)	大原昌宏
大西 慶	D3	理学院 (S203)	湯浅万紀子
雲中 慧	M2	理学院 (S203)	湯浅万紀子
森本 智郎	M2	理学院 (S203)	湯浅万紀子

岩本 歩夢	M1	理学院 (S203)	湯浅万紀子
橋本 彩加	M1	理学院 (S203)	湯浅万紀子
西嶋 圭	M1	理学院(N307)	阿部剛史
五十嵐 茉奈	B4	理学院(N307)	阿部剛史
南 有希乃	B4	理学院(N307)	阿部剛史
西嶋 圭	B4	理学院(N307)	阿部剛史
許 開軒	D3	文学院 (S203)	江田真毅
荒井 綺乃	M1	文学院 (S203)	江田真毅
松本 堅	B4	水産学部	田城文人

修士論文・博士論文の主査・副査 (件数)

教員名	博士論文	修士論文
小林快次	0 件	4 件 (主査 2・副査 2)
大原昌宏	3 件 (主査 2・副査 1)	4 件 (主査 2・副査 2)
湯浅万紀子	0 件	0 件
阿部剛史	-	-
江田真毅	1 件 (副査 1)	1 件 (副査 1)
田城文人	0 件	3 件
首藤光太郎	-	-

## V. 社会貢献

### A 展示

<常設展示>

#### ・コロナ対策

昨年度の引き続き、入館者への対策のお願い、館教職員の対策の徹底を行なった。

#### ・北大の学び舎維持発展 WG 開催

趣旨：2016年7月26日にリニューアルオープンした総合博物館には、新たに人文・社会・自然科学を網羅する本学の全12学部の最新の研究や教育、社会貢献などについて紹介する「北大の学び舎」が加わった。全学部の最新情報を手軽に得ることができる。北大の学び舎維持発展WGは、各部署の展示担当教員と共に、展示を維持し発展するために議論するものである。

担当教員：首藤光太郎、北野一平

開催日：第1回令和4年8月9日（火）オンラインにて開催、第2回令和5年3月31日（金）オンラインにて開催

#### ・水産科学館展示施設 WG

水産科学館本館の閉館（2015年～）および新型コロナウイルスに伴い展示活動を制限しているためWGの開催は見合わせた。一方、展示施設の改築が12月に決定したことを受け、それに関わる準備グループ（水産科学未来人材育成館実務者MTGおよびTF）を立ち上げ、定期的なオンライン・対面でのミーティングを実施した。

#### ・展示解説・案内対応

展示解説依頼に対しては、館長・教授・准教授・研究支援推進員・資料部研究員・ボランティア等が適宜分担し対応しているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染対策のため例年より大幅に減少した。

団体・学校名	年月日	人数	解説者名
北海道大学工学部	4月19日	56	小澤丈夫
北海道大学農学部畜産科学科	4月22日	25	近藤誠司
日本建築センター主催の研修会「WOOD RISE」	5月26日	30	小篠隆生(小澤丈夫代行)
札幌農学同窓会	5月29日	15	近藤誠司
名古屋市立大学大学院	5月30日	12	近藤誠司、小澤丈夫
北海道大学農学部畜産学科48年同期会	6月5日	10	近藤誠司
北海道大学農学部森林科学科	6月15日	39	近藤誠司
北海道大学大学院工学院	7月27日	8	小澤丈夫
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	10月9日	17	三谷朋弘

・植物標本の展示のリニューアル

7月20日に、常設展示「生物標本の世界」内の植物標本に関する展示がリニューアルされた。

・その他

- 「北大のいま」展示の北大の組織図、および「北大の学び舎」展示の各学部サイネージの就職状況の情報を更新した。

<企画展示>

・展示名：山本純一写真展「カムイの大地」

担当者：大原昌宏

概要：北海道を代表する自然環境、世界遺産の知床の動植物・自然・環境を、写真家 山本純一氏が撮影した写真、約30点を展示する写真展および講演会を開催した。北海道の生物多様性、自然環境について、その将来の研究と保護への理解を促す機会となった。

期間：令和4年4月16日（土）から5月29日（日）

会場：総合博物館 1階企画展示室

入館者数：20,043名

山本純一 写真展  
**カムイの大地**  
生命の鼓動

2022年4月16日(土)~5月29日(日)  
開館時間 10:00~17:00 [入場無料]  
休館:月曜日

北海道大学総合博物館  
1階企画展示室

4月23日(土) 開場:13:00 開演:13:30  
カムイの大地撮影秘話(4-6編)

講演会

5月14日(日) 開場:13:00 開演:13:30  
カムイの大地撮影秘話(9-14編)

THE HOKKAIDO UNIVERSITY MUSEUM  
© 北海道大学総合博物館

・展示名：小惑星リュウグウのサンプルレプリカ展示

担当者：北野一平

期間：令和4年6月12日（日）から9月4日（日）

会場：北海道大学総合博物館 3階 「鉱物・岩石標本の世界」展示室



・展示名：「感じる数学 Tangible Math ～ガリレイからポアンカレまで～」展

担当者：大原昌宏、理学研究院数学部門 正宗淳

概要：数学の不思議、仕組み、応用の一旦を北大理学院数学部門の教員と札幌在住の高校教員が協力して見える形にし、子供から大人までがそれぞれの知識と興味に応じて学び楽しめる一般公開を行った。具体的には「不変量」「最適化」「確率統計」「フーリエ変換」に関する解説、具象表現、実社会における応用を展示した。

期間：令和4年7月30日（土）から9月25日（日）

場所：総合博物館 1階企画展室

主催：北海道大学総合博物館、数学見える化プロジェクト

協力：北海道大学大学院理学研究院数学部門、(株)イーアイテック、(株)くいんと、北海道算数数学教育会  
高等学校部会研究部 数学教育実践研究会

入館者数：43,338名



・展示名：「第3回 建築の学生展」

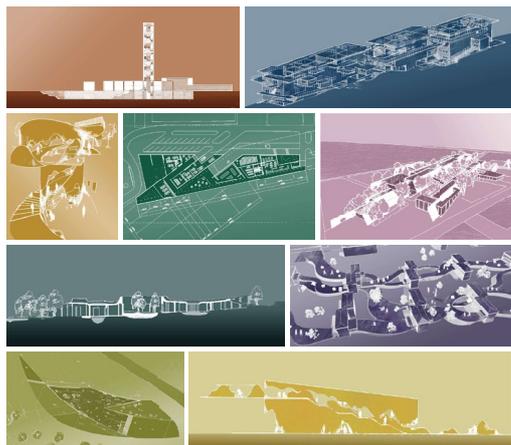
担当者：湯浅万紀子、小篠隆生（工学院）

概要：当館での第1回・第2回「建築の学生」展に続き、本学工学部 環境社会工学科 建築都市コース 授業のなかで学生達が製作した建築模型や図面を多数紹介した。第3回となった今回は企画段階から文学部 人文科学科 哲学文化学コースと文学院 人文学専攻の学生が参加して協働した。会期中、学生達が会場に常駐し、工学部の学生は来場者に説明し質問に答え、文学部の学生は会場運営を担当した。「学生の建築」展ではなく、「建築の学生」展としたタイトルには、学生達との対話を通して建築を学ぶ彼らの姿を知ってもらいたいという思いが込められている。第2回に続き、2会場（企画展示室、知の交流ホール）でのより大規模な展示となり、メインビジュアルや会場構成も洗練された。1回目から対応している大学院生1名の他にも、役割分担を決めたメンバーが全体をスムーズに運営した。第2会場への誘導が無事なされ、来場者数は会場別に、1日目は325名、325名、2日目は518名、534名であり、総数で859名であり、第1回の来場者総数470名、第2回436名を大幅に上回った。個々の作品・全体への感

想などを問うアンケートを第1会場で配布し、第2会場で回収した。回収数は201枚、うち30名が学生で、北大生は26名であった。学生の解説を中心に概ね好評であった。企画のプロセス、出展リスト、会場構成、アンケートの分析、学生メンバーの考察が盛り込まれた報告書が、第1回・第2回に続いてまとめられた。

開催日：令和4年10月8日（土）・9日（日）

場所：総合博物館1階 知の交流ホールと企画展示室



あなたにとってのケンチクが、変わる日

## 第3回 建築の学生展

2022.10.8[Sat]-10.9[Sun] 10:00-17:00 入場無料

会場：北海道大学総合博物館1階企画展示室、知の交流ホール  
 主催：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース有志学生、  
 文学部人文科学科哲学・文化学コース芸術学研究室有志学生  
 共催：北海道大学総合博物館

◎授業で製作した建築模型・図面等の**展示や学生による説明**を行います。  
※新型コロナウイルス感染症予防対策として、マスクの着用・手洗いの励励・非接触型体温計での検温・  
 室内換気や窓開けによる換気・入室制限を行います。また、体調のすぐれない方は来館をご遠慮ください。



アクセス

### お問い合わせ

＜建築の学生展＞  
 代表：佐々木悠貴（北海道大学工院修士2年）  
 E-mail: archi-gakusei@hokudai.ac.jp  
 ＜総合博物館＞  
 TEL: 011-706-2658  
 E-mail: museum@hokudai.ac.jp



インスタでも  
 展示中！

場所：北海道大学総合博物館（札幌キャンパス内）  
 住所：札幌市中央区北10条西5丁目  
 開業時間：札幌市定休日（土曜）を除く  
 地下鉄北12条駅から徒歩9分

### ・展示名：「小さなちいさな哺乳類トガリネズミ展－骨までみせます！」

担当者：大原昌宏

概要：2017年以来、総合博物館では生体展示を開催しており、トガリネズミの認知は次第に上がっている印象をうける。また本年は、当博物館研究員（低温研・助教）の大舘智志と札幌市円山動物園が、ヒメトガリネズミの完全飼育下での繁殖に成功し、ネットで話題になっている。本企画では主に一般市民を対象に北海道に生息しているトガリネズミ類の生体展示を行うとともに、パネル等での啓蒙教育を行った。また今回の企画の特徴は、トガリネズミ類や真無盲腸類の全身骨格の展示を行ったことである。これは科学的に興味深いだけでなく、美術・造形的に優れたアトラクションとなった。合わせて一般市民向けにトガリネズミ類の進化・生態や飼育などについての講演を行い理解を深める機会を提供した。

期間：令和4年11月29日（火）から12月25日（日）

会場：総合博物館 1階 北極域研究センター展示室

入館者数：10,731名

小さないさな哺乳類

# トガリネズミ展

一骨までみせます！

2022.11.29（火）～12.18（日）  
北海道大学総合博物館 1階 北極域研究センター展示室  
開館時間：10：00～17：00 入場無料  
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日休館）

【公開セミナー】  
「トガリネズミの飼育下「初」繁殖！」  
飯島なつみ（円山動物園）  
「真無盲種類の多様な形態と生態」  
大館智志（北大低溫研・博物館）  
12月18日（日）13：30～15：00  
定員50名、先着順・参加無料、申し込み不要  
北大総合博物館1階 知の交流コーナーにて開催予定！  
※ 新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、日程・会場が変更される可能性があります。  
開催情報は北大総合博物館 1F までお問い合わせください。

トガリネズミは  
はなないのだ

1円玉1.0g×2枚

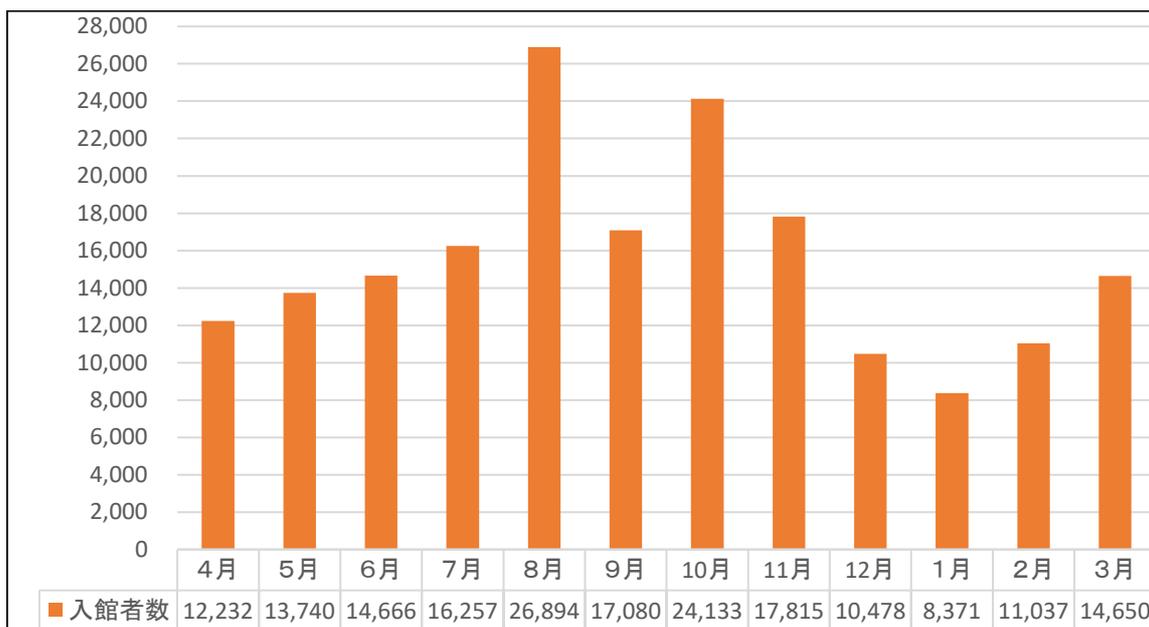
トガリネズミ

後援：北海道大学低溫科学研究所、東海大学札幌キャンパス  
協力：札幌市円山動物園

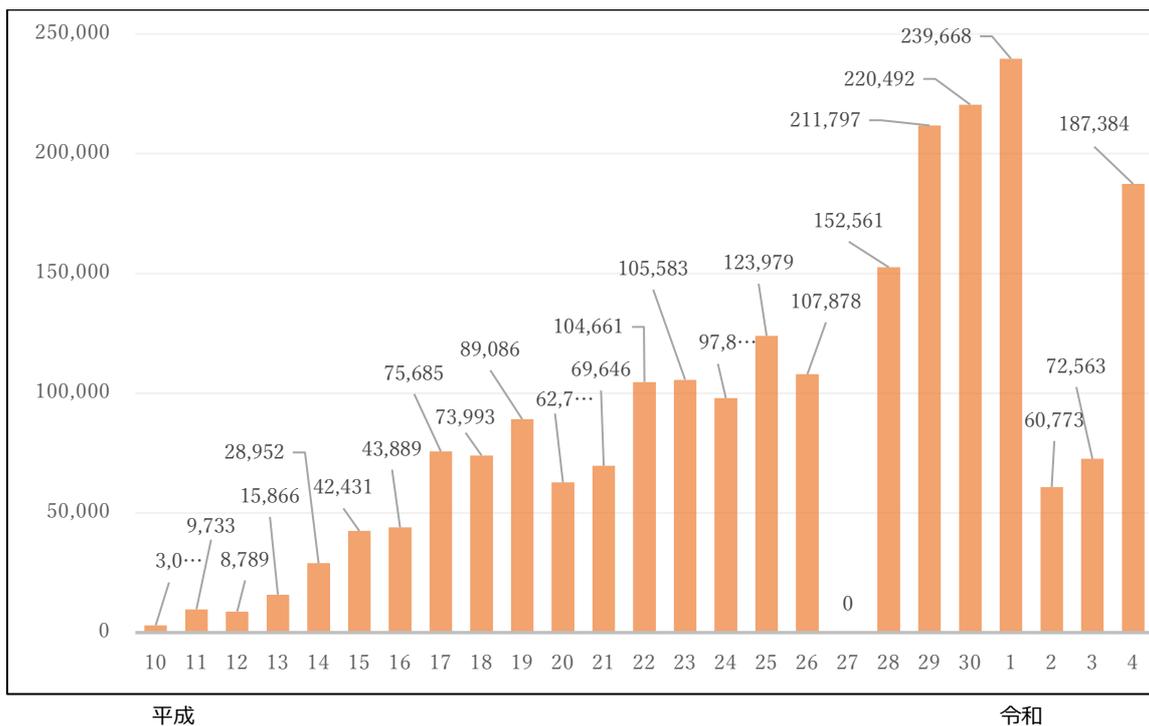
〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目  
TEL：011-706-2658  
北海道大学総合博物館 <https://www.museum.hokudai.ac.jp/>

## 北海道大学総合博物館入館者数の推移

・令和4年度月間入館者数



・年間入館者数（人）



※平成10年11月1日試行的に開設（3階アイランドアーク） ※平成11年4月1日開設  
 ※平成13年9月27日 1階展示ゾーン開設 ※平成17年11月3日 2階展示ゾーン開設  
 ※平成27年4月1日～平成28年7月25日 耐震改修工事のため休館 ※平成28年7月26日リニューアルオープン ※令和2年2月29日～7月13日,令和3年5月3日～6月30日,3年8月27日～10月3日 コロナウイルス感染防止のため臨時休館

## B セミナー

- ・土曜市民セミナー

前期：新型コロナの感染拡散防止のため、これまでのようなセミナーではなく、Facebook 博物館アカウントにおいて、「北大総合博物館のすごい標本」（北海道大学総合博物館編、北海道新聞社、2020）に関連した動画を毎月4回を目安にして配信した。各月、異なったテーマで、本に関する標本を紹介した。令和5年の1月からは、対面の土曜市民セミナーを再開した。

facebook 配信「北大総合博物館ビデオクリップ 学術資料アーカイブ・科学機器編」、山下俊介（総合博物館資料部研究員／北海道大学水産科学研究院特任助教）（撮影・編集：柴野伸幸技術補佐員）

- 4月2日配信「科学技術史コレクション」（4分17秒）
- 4月12日配信「科学機器収蔵閲覧室」（2分29秒）
- 4月22日配信「これは何？ 室外蒸発皿」（2分49秒）
- 4月22日配信「水産学教授用掛図～何が読み取れるか」（4分11秒）
- 4月26日配信「映像収蔵閲覧室」（2分58秒）
- 4月28日配信「学術映像資料」（3分01秒）

facebook 配信「北大総合博物館ビデオクリップ 植物編」、首藤光太郎（北海道大学総合博物館助教）（撮影・編集：柴野伸幸技術補佐員）

- 5月20日配信「キバナノアマナ」（2分32秒）
- 5月24日配信「エゾエンゴサク」（2分29秒）
- 5月27日配信「オオバナノエンレイソウ」（2分33秒）

facebook 配信「北大総合博物館ビデオクリップ 昆虫編」、大原昌宏（北海道大学総合博物館教授）（撮影・編集：柴野伸幸技術補佐員）

- 6月1日配信「アイヌキンオサムシ」（3分42秒）
- 6月8日配信「ヤマトサビクワガタ」（3分44秒）
- 6月17日配信「イチジクホソガ」（4分16秒）
- 6月22日配信「ヨーロッパの蛾の標本群」（3分02秒）
- 6月30日配信「昆虫の多様性」（3分46秒）
- 8月19日配信「コバチ」（3分58秒）

facebook 配信「北大総合博物館ビデオクリップ 考古編」、江田真毅（北海道大学総合博物館教授）（撮影・編集：柴野伸幸技術補佐員）

- 7月22日配信「考古遺物の世界・収蔵展示」（2分34秒）
- 8月17日配信「鳥類からわかること」（2分10秒）
- 8月27日配信「考古学のバックヤード」（2分33秒）

facebook 配信「北大総合博物館ビデオクリップ 岩石・鉱物編」、北野一平（北海道大学総合博物館助教）（撮影・編集：柴野伸幸技術補佐員）

- 9月1日配信「日高変成帯」（3分36秒）

- 9月8日配信「幌満カンラン岩」(1分 51秒)
- 9月15日配信「豊羽鉱山」(4分 00秒)
- 9月22日配信「光竜鉱山」(3分 20秒)

facebook 配信「北大総合博物館ビデオクリップ」、小澤丈夫（北海道大学総合博物館館長）（撮影・編集：柴野伸幸技術補佐員）

- 12月10日配信「総合博物館長から皆様へ」(50秒)



総合博物館長から皆様へ  
122 回視聴・3 か月前



光竜鉱山【岩石・鉱物編17-4】  
108 回視聴・6 か月前



豊羽鉱山【岩石・鉱物編 17-3】  
168 回視聴・6 か月前



幌満かんらん岩【岩石・鉱物編 17-2】  
249 回視聴・6 か月前



日高変成帯【岩石・鉱物編 17-1】  
153 回視聴・6 か月前



考古学のバックヤード【考古編 16-3】  
120 回視聴・7 か月前



コバチ【昆虫編 15-6】  
98 回視聴・7 か月前



鳥骨から分かること【考古編 16-2】  
88 回視聴・7 か月前



考古遺物の世界・収蔵展示【考古編 16-1】  
117 回視聴・8 か月前



昆虫の多様性【昆虫編 15-5】  
132 回視聴・9 か月前



ヨーロッパの蝶の標本群【昆虫編 15-4】  
143 回視聴・9 か月前



イチジクホソガ【昆虫編 15-3】  
90 回視聴・9 か月前



ヤマトサビクワガタ【昆虫編 15-2】  
177 回視聴・9 か月前



アイヌキンオサムシ【昆虫編 15-1】  
177 回視聴・9 か月前



オオバナノエンレイソウ (2022/5/20撮影)  
【植物編14-3】



エゾエンゴサク (2022/4/28撮影)  
【植物編 14-2】

対面で開催された土曜市民セミナー

令和5年1月21日(土) 13:30-15:00

タイトル「コロナ禍での地質学・岩石学研究一例」

演者：北野一平（北海道大学総合博物館 助教）

場所：総合博物館 1階 知の交流コーナー

令和5年2月11日(土)

タイトル「北海道大学札幌キャンパスにおける歴史的建造物の保存と活用-近年の取り組みと課題-」



より深め、職員としての意識を高めるとともに、コミュニケーション能力を身につける。

経緯：2017年度より実施（2020・2021年度はコロナ禍での休館のため実施せず）

研修生：2022年度初任事務職員 30名

内容：7月 総合博物館の使命や役割、来館者対応についての講義と全館見学案内（湯浅万紀子）

8月2日～4日 グループに分かれて2時間の見学対応

- NHK-BS「発掘！キャンパス・ミュージアム」放送

◇ 番組名：発掘！キャンパス・ミュージアム～北海道大学の巻～

放送日：令和4年6月6日(月)、6月11日(土)、12月14日(水)、12月20日(月)

NHKBSプレミアム/BS4K同時放送



- 札幌市制100周年記念 第73回「さっぽろ雪まつり」

STV 広場の大雪像制作に協力



## C 公開シンポジウム

令和4年度は、新型コロナの影響が残るため、開催を断念した。

## D ボランティア活動

1999年度から、総合博物館では標本整理や展示解説などの分野でボランティア活動を推進している。16分野へと幅も広がり、登録者数も増えている。各グループでの研修に加え、博物館の研究と教育に幅広く関心を持ってもらい、ボランティアの交流を促進するため、博物館が主催してボランティア講座・交流会を開催している。水産科学館でも標本整理に学生ボランティアが活動している。

分野	担当者	登録者数
ボランティア・マネジメント	湯浅万紀子、山田久恵、（柴野伸幸、市來紗都子、渡邊洋子）	
・化石	小林快次	32名
・考古	江田真毅	39名
・昆虫	大原昌宏	28名
・植物	首藤光太郎	35名
・展示解説	湯浅万紀子	19名
・遠友夜学校	阿部剛史、（藤田正一）	8名
・歴史展示	阿部剛史、（藤田正一）	2名
・4Dシアター	北野一平	15名
・メディア	大原昌宏	4名
・チェンバロ	大原昌宏	9名
・図書	大原昌宏、江田真毅	12名
・第2農場	近藤誠司、首藤光太郎	13名
・ハンズオン	北野一平、湯浅万紀子	8名
・きたみてガーデン	首藤光太郎	14名
・地学	北野一平	17名
ボランティア等関連団体		
・HUISA	小林快次	
・北大ミュージアムクラブ Mouseion	湯浅万紀子	

### ボランティア表彰表彰の方々

5年表彰：石神早希（4Dシアター）、宇井康子（第2農場）、太田 晶（考古、化石、展示解説）、謝倩氷（考古）、諏訪正明（昆虫）、田端邦子（植物、図書室業務）、中川博之（植物）、仲谷優輝（ハンズオン）、長谷川健太（4Dシアター）、渡部典子（展示解説、第2農場）、小幡光汰（水産科学館）、樋口淳也（水産科学館）、古庄 誠（水産科学館）で計13名

10年表彰：岡西滋子（図書室業務）、金内寿美（化石）、今野成捷（図書室業務）、中井稚佳子（図書室業務）、平田栄夫（4Dシアター）で計5名

ボランティア講座&交流会：令和5年1月21日（土）の土曜市民セミナー後、北野一平助教と交流会を行った。

## E 自治体や他機関との協定締結

神流町恐竜センター（2013年6月1日より）

むかわ町（2014年9月1日より）

北海道立北方民族博物館（2015年3月24日より）]

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会（2018年12月18日より）

## F その他

### ・研究報告会

趣旨：毎年度末に、研究部、資料部、学生・院生、ボランティアから発表者を募り、博物館活動を報告する会。昨年度からの新型コロナの影響によって縮小された博物館活動を、今年度は感染拡大防止対策をしながら、少しずつ活動を上げていった。

開催日：令和5年3月15日（火）オンライン開催

13:00 館長の挨拶（小澤丈夫館長）

13:10 全体報告（小林快次研究部長）

13:30 研究部研究報告（田城文人助教）

13:50 資料部長から全体報告（坪田敏男資料部長）

14:00 資料部研究員研究報告（川西亮太資料部員）

14:20 学生・院生研究報告（清水洲平）

14:40 ボランティアの会会長からの報告（在田一則会長）

14:50 ボランティア活動報告（4Dボランティア 福澄孝博）

15:10 館長から閉会の挨拶（小澤丈夫館長）

### ・カルチャーナイト（事務）（日付、活動内容）

認定NPO法人カルチャーナイト北海道が主催する、札幌市内の公共・文化施設や企業で開催するイベント。地域の住民だけでなく観光客も対象とした、北海道の地域文化活動。北海道大学総合博物館は、チェンバロと4Dシアター、そして天体観測の3分野でカルチャーナイト2021に参加した。

開催日：令和3年7月

場所：総合博物館

内容：企画をしていたがコロナ感染拡大のため中止となった。

#### ・北海道大学ホームカミングデー

北海道大学では、平成24（2012）年度から、同窓生などをキャンパスに招いて交流を深め、本学の今を知っていただく「北海道大学ホームカミングデー」を開催している。総合博物館では初年度より協力を  
行い、同窓生や関係者、来館者から好評をいただいている。

開催日：令和3年9月

場所：総合博物館

内容：企画をしていたがコロナ感染拡大のため中止となった。

#### ・高校教育との連携

開催日：令和3年9月

場所：総合博物館

内容：企画をしていたがコロナ感染拡大のため中止となった。

## VI. 国際的な活動

### A 各種協定締結

#### A 各種協定締結

1. ロシア・サハリン州立郷土博物館（2000年8月1日より）
2. ドイツ・ゼンケンベルグ自然史博物館（2009年11月18日より）
3. フランス・ストラスブール動物学博物館（2009年11月20日より）
4. ロシア・カムチャッカ国立工科大学（2010年8月20日より）
5. インドネシア・Padjadjaran 大学地質学部（2011年2月24日より）
6. ロシア・イルクーツク工科大学（2011年6月1日より）
7. モンゴル科学アカデミー古生物学研究所（2011年8月15日より2030年5月20日）
8. アメリカ合衆国テキサス州ダラス自然史博物館（2011年8月23日より2021年8月22日）
9. タイ王国国立科学博物館（タイ）（2012年9月19日より2021年7月26日）
10. 韓国地質資源研究院地質博物館（2013年3月20日より2023年3月19日）
11. アメリカ合衆国・アラスカパシフィック大学（2021年9月2日より2031年9月1日）

### B 客員教授・外国人研究員

令和4年4月1日～3月31日・客員教員

Anthony Richard Fiorillo（米国・南メソジスト大学、ニューメキシコ州立自然史博物館）

## VII. 広報 博物館ニュース、HP、FB、新聞報道記録など

### ・博物館ニュース

44号と45号を出版した。



#### CONTENTS

- 01 入館者200万人達成!
- 02 プレスリリース
- 04 資料部研究報告
- 07 新任教員紹介
- 08 「宮澤・レン事件」80周年特別展  
～事件をめぐる“出会い”と“絆”をたどる～を開催
- 11 卒論ポスター発表会



#### CONTENTS

- 01 夏季企画展  
「感じる数学 Tangible Math  
～カレライからポアンカレまで～」を開催
- 04 プレスリリース 北海道中川町の恐竜化石を新属新種  
「バウタリジノサウルス・ジャポニクス」と命名
- 05 プレスリリース 日本産アイヌムギ(イネ科)の正体を解明
- 07 博物館実習
- 11 カルチャーナイト2022星空とチャンパロの夕べ



### ・ホームページ掲載

4月6日山本純一写真展「カムイの大地」

4月28日ミュージアムマイスター認定式(2021年度認定)

5月11日テリジノサウルス科の新種恐竜と判明

5月12日STVの情報番組で北大総合博物館が紹介されます。

5月17日NHKアカデミア講座小林先生の回が配信・放映されます。

5月25日6/6(月)・6/11(土)NHKBS「発掘! キャンパス・ミュージアム～北海道大学の巻」の再放送が決定いたしました。

6月10日小惑星リュウグウのサンプルレプリカ展示

6月16日令和4年10月度 北海道大学総合博物館研究生 募集要項

6月23日湯浅万紀子教授が第5回大堀哲記念ミュージアム・マネージメント推進賞を受賞

7月19日【7月20日～】誰もが利用できる植物標本庫 オープン・ハーバリウム ～植物標本の展示がリニューアルしました～

7月30日8月1日放送「一生使える! ミュージアムの楽しみ方」ロケが当館でありました。

8月17日【研究報告】日本産アイヌムギの正体を解明

8月19日8月22日(月)Tvh テレビ北海道にて 2021年度の学生企画ミュージアムグッズが紹介されます。

8月24日 2022 夏 新・学生企画ミュージアムグッズ「ゾウ&マンモス風呂敷」「発掘！ランダムシール 古生物&土器」販売開始

8月24日【7月30日～9月25日開催】夏季企画展「感じる数学 Tangible Math ～ガリレイからポアンカレまで～」

9月15日 2022年9月17日(土) 宇宙の4Dシアターリバイバル公演のお知らせ

9月21日 2022年度 博物館実習が実施されています。

9月29日夏季企画展の動画がYouTubeでUPされています。

10月7日10月22日 11月5日 4Dシアター『人に話したくなる宇宙の旅』公演のお知らせ

11月4日北野一平助教が、第8回北大・部局横断シンポジウムにおいてベストポスター賞を受賞しました。

11月10日11月6日に札幌市広報番組「ウォッチング札幌 NEXT100」で当館が取り上げられました。

11月24日ポプラチェーンバロとリコーダー三重奏『マリモのセレナーデ』YouTube公開のお知らせ

11月25日12/3～12/9 総合博物館内に障がい者就労支援施設「元気ショップいこ～る」が出前出店します。

11月31日12月3日(土)HBC番組「石ちゃんのビーフ天国」にて、ミュージアムカフェぼらすの北大短角牛メニューが紹介されます。

12月7日NHK Eテレにて「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪 北海道大学総合博物館」が年末に再放送されます。

12月23日NHKBSプレミアムにて小林快次教授のモンゴル ゴビ砂漠調査に密着取材した特集番組「発掘ロストワールド 恐竜の聖地ゴビ砂漠」が放送されます。

12月24日NHK ラジオ「冬休み！子ども科学電話相談」に小林快次教授が出演します。

1月9日小林快次教授が札幌市制100周年記念 第73回「さっぽろ雪まつり」STV広場の大雪像制作に協力いたします。

1月10日NHK FM ラジオにて小林快次教授出演「トーキング ウィズ 松尾堂 選 「恐竜国・日本に心躍らせる」が放送されます。

1月10日クラーク博士の玄孫ご家族が札幌農学校第2農場、総合博物館を訪れました。

1月18日【研究報告】長門構造帯は日本最古級の地質体の一部

1月20日公衆無線 LAN サービスがご利用いただけます/Free Wi-Fi service available.

1月24日【再放送決定】NHKBS「発掘！キャンパス・ミュージアム」に北大総合博物館がとりあげられます。

1月31日北海道情報誌 HO「ほ」に本館で取材した中谷宇吉郎博士の特集記事が掲載されました。

2月4日「さっぽろ雪まつりが開幕！迫力の恐竜大雪像登場！」

2月7日【3月4日(土)～5日(日)】卒論ポスター発表会

2月24日3月4日 4Dシアター『陰陽師が見たかも知れない星ぼし』公演のお知らせ  
3月4日 NHK スペシャル 「恐竜超世界2」に当館小林教授出演いたします。  
3月5日「恐竜」関連番組続々！ 小林快次教授が出演します。  
3月8日水産科学館の長期休館のお知らせ  
3月13日北海道大学総合博物館の新型コロナウイルス感染拡大防止策  
3月15日フリーペーパー「スコブル」で博物館地学ボランティアの様子が掲載されました。  
3月15日【4月8日開催】博物館ボランティアによる展示解説  
3月16日 2022年度マイスター認定式が執り行われました。

#### ・フェイスブック掲載

4月2日【北大総合博物館ビデオクリップ 学術資料アーカイブ・科学機器編】13-1  
4月7日山本純一氏の写真展が、満を持して開催されます！  
4月7日北海道大学化学反応創成研究拠点（ICReDD）のベンジャミン・リスト先生がノーベル化学賞を受賞され、当館に先生に関連した新パネルが設置されました。  
4月9日博物館資料保存実験展示スタート！  
4月12日北大総合博物館ビデオクリップ 学術資料アーカイブ・科学機器編】13-2  
4月16日 本日4月16日(土)【山本純一写真展「カムイの大地」生命の鼓動】が開幕いたしました！  
4月20日北大総合博物館ビデオクリップ 学術資料アーカイブ・科学機器編】13-3  
4月22日水産学教授用掛図～何が読み取れるか【北大総合博物館ビデオクリップ 学術資料アーカイブ・科学機器編】13-4  
4月23日山本純一写真展「カムイの大地」生命の鼓動講演会—撮影秘話 夏・秋編—  
4月26日北大総合博物館ビデオクリップ 学術資料アーカイブ・科学機器編】13-5  
4月28日北大総合博物館ビデオクリップ 学術資料アーカイブ・科学機器編】13-6  
4月28日ミュージアムマイスター2021年度認定学生の認定式が執り行われました。  
5月6日 山本純一写真展「カムイの大地—生命の鼓動—」第二回講演会開催  
5月11日新種恐竜と判明！昨日、2000年に中川町で発見されたテリジノサウルス科の指先の化石などについてプレス発表が当館にて行われました。  
5月12日 STV 情報番組「真夜中のいいね♡」に当館の首藤光太郎助教がゲスト出演！  
5月17日【『カムイの大地』—撮影秘話 夏・秋編— 写真家 山本純一氏による講演会が開催  
5月17日当館の小林快次先生（古生物）が NHK アカデミア講座という番組で第二回目の講師として登場します。  
5月20日北大総合博物館ビデオクリップ 植物編】14-1 キバナノアマナ  
5月14日北大総合博物館ビデオクリップ 植物編】14-2「エゾエンゴサク」  
5月25日「発掘！キャンパスミュージアム～北海道大学の巻～」が再放送  
5月27日北大総合博物館ビデオクリップ 植物編】14-3「オオバナノエンレイソウ」  
6月1日北大総合博物館ビデオクリップ 昆虫編】15-1「アイヌキンオサムシ」

6月8日北大総合博物館ビデオクリップ 昆虫編】15-2「ヤマトサビクワガタ」

6月10日6月13日12日（日）から小惑星リュウグウのサンプルレプリカを展示します！

6月13日明日、6/13日は「はやぶさの日」...

6月14日【7月2日開催】博物館ボランティアによる展示解説

6月18日北大総合博物館ビデオクリップ 昆虫編】15-3 イチジクホソガ

6月23日湯浅万紀子教授が第5回大堀哲記念ミュージアム・マネージメント推進賞を受賞しました。

6月23日カルチャーナイト2022】北大総合博物館が夜21時まで開館！

7月6日ウッドデッキプロジェクトのメンテナンス作業が行われました

7月16日2022 学生企画「ミュージアム・フォト・ウォーク！～みる・きく・はなす博物館入門講座～」参加者募集】

7月19日 Open Herbarium 【オープンハーバリウム】がオープンしました！

7月26日2022 夏 新・学生企画ミュージアムグッズ販売開始

7月29日学生企画「ミュージアム・フォト・ウォーク」参加者による共有マップの展示公開

7月30日感じる数学 Tangible Math ～ガリレイからポアンカレまで～開幕しました！

7月30日NHKの朝の人気番組「あさイチ」の取材ロケがありました。

7月31日「感じる数学 Tangible Math ～ガリレイからポアンカレまで～」展 解説ツアー

8月17日総合博物館・首藤光太郎助教らのグループによる『日本産アイヌムギの正体を解明』の研究結果が、北海道大学のプレスリリース（研究発表）で紹介されました。

8月17日北大総合博物館ビデオクリップ 考古編】16-2「鳥骨から分かること」

8月19日8月22日(月)Tvh テレビ北海道にて2021年度の学生企画ミュージアムグッズが紹介されます。

8月24日～8月31日まで札幌キャンパスにてLASBOSカードラリーキャンペーン開催中～

8月25日当館常設展示室の文学部展示が一部リニューアルしました。

8月25日カフェぼらすで今期の夏季企画展とのコラボメニューが販売されています。

8月27日北大総合博物館ビデオクリップ 考古編】16-3「考古学のバックヤード」

8月27日STV札幌テレビ放送×イオンモール札幌発寒店連携 LASBOSカードラリー開催！

8月31日夏季企画展では正宗淳先生の研究が日本機械学会に表彰された際のメダルが展示されています

8月31日夏季企画展関連講演会ライブ配信

9月1日北大総合博物館ビデオクリップ 岩石・鉱物編】17-1「日高変成帯」

9月2日小林快次先生のもとでハドロサウルス類の研究をしているミュージアムマイスターの高田健太郎さんが2022年度 北海道大学理学院優秀研究奨励賞を受賞しました。

9月6日総合博物館前に植樹されていたハリニレの木伐採

9月8日北大総合博物館ビデオクリップ 岩石・鉱物編 17-2】幌満かんらん岩

9月14日夏季企画展「感じる数学ーTangible Mathーガリレイからポアンカレまで」もいよいよ終盤に近付いています。

9月15日【北大総合博物館ビデオクリップ 岩石・鉱物編 17-3】「豊羽鉱山」

9月15日 2022年9月17日(土) 宇宙の4Dシアターリバイバル公演のお知らせ

9月21日 2022年度 博物館実習が9月13日(火)からスタートいたしました！

9月22日北大総合博物館ビデオクリップ 岩石・鉱物編 17-4】「光竜鉱山」

9月24日 10月8日・9日に建築の学生展が開催されます

9月24日研究成果「水草の王様」希少種ナガバエビモの新産地を発見～道北地方に比較的広く現存する可能性を示唆～

9月29日先日9月17日(土)に開催された夏季企画展関連講演会の様子がYouTubeにアップされました

10月7日「錦鯉が行く！のりのり散歩」10月8日放送回で当館が紹介されます

10月7日宇宙の4Dシアター公演『人に話したくなる宇宙の旅』が10月22日,11月5日(土)開催されます。

10月7日【ミュージアムマイスター学生参加プロジェクト】2022年度卒論ポスター発表会 発表者・運営スタッフの募集を開始いたします。

10月8日【建築の学生展 本日10月8日より開幕】

10月9日第3回「建築の学生」に800名以上の方がご来場しました

10月19日 2022夏季企画展示「感じる数学」展示解説担当学生の最終考察レポートが当館HPにて公開されました。

11月2日ミュージアムグッズを開発する授業、今年度も始動<sup>[1]</sup>

11月4日当館の北野一平助教が、10月28日(金)に開催された第8回北大・部局横断シンポジウムで「ジルコンの可能性 ～地球史解説・資源地質への貢献～」の演題でポスター発表を行い、ベストポスター賞を受賞しました。

11月10日札幌市の広報番組、「ウォッチング札幌 NEXT100」内で当館が取り上げられ、先日11/6日に放送されました。

11月11日【11月29日(火)開幕】トガリネズミ展 - 骨までみせます！

11月25日ミュージアムマイスター認定式が執り行われました。

11月25日 2/3～12/9の7日間、総合博物館では1階講義室において、札幌市内の障がい者就労支援施設「元気ショップいこ～る」が出前出店（営業時間 10:30～17:00）いたします。

11月29日いよいよ今年度も開幕しました。小さなちいさな哺乳類…トガリネズミ展 - 骨まで見せます - ！

11月30日総合博物館カフェスペースにて、HBC番組「石ちゃんのビーフ天国」の収録が行われました！「まいう～！」でおなじみのタレント、石塚英彦さんに本学静内研究牧場産の北大短角牛メニューをご賞味いただきました。

12月3日本日、総合博物館内に障がい者就労支援施設「元気ショップいこ～る」が出前出店・期間限定でオープンいたしました！

12月10日第一回目は当館北野一平助教による「コロナ禍での地質学・岩石学研究一例」

12月7日 今年1月にNHKBSにて「発掘！キャンパスミュージアム～北海道大学の巻～」が放送され、2月にNHKEテレにて、その番組を30分に濃縮した「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪 北海道大学総合博物館」が放送されました。

12月10日 小澤丈夫館長『北大総合博物館のすごい標本』の解説動画最終回

12月14日 2022年度前期にミュージアムマイスターに認定された佐々木健太さん（水産学部3年）の認定式が函館の水産科学館で執り行われました。

12月14日 プラス・ミュージアム・プログラムにパレラーとして小澤丈夫館長が登場します。

12月16日当館の小林快次教授が札幌市制100周年記念 第73回「さっぽろ雪まつり」STV広場の大雪像制作に協力いたします！

12月22日 水産学部展示リニューアル！

12月23日 NHKBSプレミアムにて小林快次教授のモンゴル ゴビ砂漠調査に密着取材した特集番組「発掘ロストワールド 恐竜の聖地ゴビ砂漠」が放送されます！

12月24日 小林快次教授がレギュラーを務める、NHKラジオの名物番組「子ども科学電話相談」の冬休みスペシャル拡大版が放送されます。

1月4日 北海道電力のHP「エネさんぽ」で当館が紹介されました。

1月10日NHK FMラジオにて小林快次教授出演「トーキング ウィズ 松尾堂 選 「恐竜国・日本に心躍らせる」が再放送されます！

1月10日クラーク博士の玄孫ご家族が札幌農学校第2農場、総合博物館を訪問！

1月17日 土曜市民セミナー「北海道大学札幌キャンパスにおける歴史的建造物の保存と活用- 近年の取り組みと課題 -」募集が開始されました。

1月19日 北野助教の研究成果がリリースされました。

1月24日NHK BSプレミアム 「発掘！キャンパス・ミュージアム 北海道大学の巻「北の勇者と宝探し！」が再放送されます。

1月31日 北海道情報誌 HO「ほ」2023.3月号に、中谷宇吉郎博士を特集した記事が掲載されました

2月4日 「さっぽろ雪まつり」大通西4丁目STV広場の大雪像監修を務めた小林快次教授が札幌テレビ放送「どさんこワイド179」の生中継に出演。

2月8日 北大サステナビリティ推進機構 SDGs 事業推進本部のHPでも「卒論ポスター発表会」開催案内をご紹介いただきました。

2月11日 土曜市民セミナー「恐竜化石調査 アラスカからモンゴルへ」が開催されます。

3月4日 宇宙の4Dシアター公演『陰陽師が見たかも知れない星ぼし』が開催されます。

3月4日 小林快次教授がJapanology Plus、日経スペシャル「60秒で学べるニュース」、こども科学電話相談室に出演されます。

3月5日 NHKスペシャルの新しい恐竜番組「恐竜超世界2」に小林快次教授が出演されます。

3月8日 水産科学館長期休館のお知らせ。

3月10日3月4日（土）5日（日）の2日間、卒論ポスター発表会を開催いたしました。

3月10日 カフェぼらす、昨年春から「世界一やさしいチョコレート」を販売

- 3月15日 北野一平助教、フリーペーパー「スコフル vol.46」に執筆記事掲載  
 3月15日 博物館ボランティアによる展示解説（4月6日）  
 3月16日 2022年度後期ミュージアムマイスター認定式  
 3月22日 土曜市民セミナー「世界最古の家禽を動物考古学から探る」開催

・新聞報道記録（セミナー開催告知は除く。）

- |    |              |        |                            |
|----|--------------|--------|----------------------------|
| 1  | 福井新聞         | 4月5日   | 科学する人 アホウドリ謎ついに            |
| 2  | 北海道新聞        | 4月9日   | おしゃべりな標本たち42 ハシボソガラス       |
| 3  | 北海道新聞        | 4月16日  | クラーク博士の功績 思いはせて            |
| 4  | 日経M J        | 4月18日  | おもてなし魅せどころ「北の英知を身近に学ぶ」     |
| 5  | 北海道新聞苫小牧・日高版 | 5月5日   | 「カムイの大地」力強く                |
| 6  | 北海道新聞札幌市内版   | 5月6日   | 「カムイの大地」切り取る               |
| 7  | 北海道新聞空知版     | 5月10日  | カムイの大地 捉えた56点              |
| 8  | 北海道新聞旭川・上川版  | 5月10日  | 氷塊や紅葉の森 道内の自然撮影            |
| 9  | 北海道新聞        | 5月10日  | 古脊椎動物の復元画 細やかに             |
| 10 | 北海道新聞        | 5月11日  | 化石は「謎の恐竜」の新種               |
| 11 | 読売新聞         | 5月11日  | 恐竜化石 新種と判明                 |
| 12 | 読売新聞         | 5月12日  | 新種恐竜の化石 展示へ                |
| 13 | 朝日小学生新聞      | 5月14日  | 北海道の恐竜化石、新種だった             |
| 14 | 北海道新聞        | 5月14日  | おしゃべりな標本たち④ ミツデソソのタイプ標本    |
| 15 | 信濃毎日新聞       | 5月16日  | 世界最古の家禽はガン？                |
| 16 | 大分合同新聞       | 5月16日  | 世界最古の家禽はガン？                |
| 17 | 北海道新聞        | 5月20日  | 海洋生物 カードで学んで               |
| 18 | 中國新聞         | 5月22日  | 世界最古の家禽はガン？                |
| 19 | 河北新聞         | 6月4日   | 世界最古の家禽はガン？                |
| 20 | 北海道新聞        | 6月6日   | ひと2022 遠藤富士幸さん             |
| 21 | 北海道新聞        | 6月11日  | おしゃべりな標本たち44 オシヨロガレイ       |
| 22 | 北海道新聞        | 6月15日  | 北広島の森 観て歩いて学ぶ              |
| 23 | 日本経済新聞       | 6月25日  | 何でもランキング 自然科学系             |
| 24 | 京都新聞         | 6月29日  | 世界最古の家禽はガンか                |
| 25 | 北海道新聞        | 7月9日   | おしゃべりな標本たち45 イッカククワガタ      |
| 26 | 北海道新聞        | 7月30日  | 数学の面白さ 見て感じて               |
| 27 | 北海道新聞        | 7月31日  | 植物標本 一般にも公開                |
| 28 | 読売新聞         | 8月3日   | 体で感じる 数学の発展                |
| 29 | 北海道新聞        | 8月4日   | コウホネ6輪開花                   |
| 30 | 北海道新聞        | 8月5日   | さっぽろ10区 北大総合博物館の魅力知って      |
| 31 | 北海道新聞        | 8月7日   | 函館の北大新教育施設 24年秋開館          |
| 32 | 北海道新聞        | 8月13日  | 日本初発見のキノコと判明               |
| 33 | 日本経済新聞       | 10月2日  | 化石ハンター14 発見は発掘の最終日         |
| 34 | 北海道新聞        | 10月14日 | さっぽろ10区 知の情報発信拠点 院生が見どころ案内 |
| 35 | 北海道新聞        | 10月31日 | アイヌムギ 置戸で自生                |

36	北海道新聞	1月6日	恐竜フェスタで家族連れ楽しむ
37	北海道新聞旭川・上川版	1月17日	新婚旅行資料も 観光の歴史紹介
38	北海道新聞空知版	1月17日	観光開発 豊かさと共に
39	北海道新聞	12月10日	おしゃべりな標本たち 50 カプトムシ
40	北海道新聞	1月14日	おしゃべりな標本たち 51 層状片麻岩
41	日本経済新聞	1月30日	コアホウドリの羽を掃除し宿主と共生関係にある希少なダニ2種を 確認
42	北海道新聞	2月2日	雪像「むかわ竜」町のPRに
43	産経新聞	2月15日	恐竜も鳴き声か 世界初、喉の化石発見
44	北海道新聞	2月15日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
45	福島民友新聞	2月15日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
46	北日本新聞社	2月15日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
47	中日新聞	2月15日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
48	北国新聞	2月15日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
49	奈良新聞	2月15日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
50	神戸新聞	2月15日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
51	徳島新聞	2月15日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
52	琉球新報	2月15日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
53	沖縄タイムス	2月15日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
54	朝日新聞	2月16日	恐竜の「のど」化石見つかる
55	日本経済新聞	2月16日	恐竜 喉の化石初発見
56	毎日新聞	2月16日	世界初、恐竜「喉」の化石発見
57	山形新聞	2月16日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
58	河北新聞	2月16日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
59	下野新聞	2月16日	恐竜も鳴き声で会話？
60	静岡新聞	2月16日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
61	佐賀新聞	2月16日	恐竜も鳴き声で会話？世界初、喉の化石発見
62	北海道新聞	2月25日	ひと2023 大原 雅さん
63	北海道新聞	2月28日	輸入の代用魚 生態も「別物」
64	北海道新聞	3月3日	さっぽろ10区 卒業研究 市民に解説
65	北海道新聞	3月24日	さっぽろ10区 ミュージアムグッズが面白い

#### ・テレビ・ラジオ報道

1	NHK ラジオ第一	5月15日	「こども科学電話相談室」
2	STV	5月18日	「真夜中のいいね♡」前編
3	STV	5月25日	「真夜中のいいね♡」後編
4	NHK BS プレミアム	6月6日	「発掘！キャンパス・ミュージアム～北海道大学の巻」
5	NHK BS プレミアム	6月11日	「発掘！キャンパス・ミュージアム～北海道大学の巻」
6	UHB	7月20日	「みんテレ」特集「夏休み直前！ 親子で行きたい無料スポット」

7	STV	7月28日	「どさんこワイド朝」 夏休み自由研究におすすめ！ 「北大総合博物館 北大&STV SDG'sデーも」
8	NHK	8月1日	「あさイチ」 一生使える！ミュージアムの楽しみ方
9	Tvh	8月22日	『5時ナビ』 2021年度学生企画ミュージアムグッズが紹介
10	HTB	10月1日	「錦鯉が行く！のりのり散歩」札幌・北区北大通り エリア#1
11	NHK ラジオ第一	10月2日	「こども科学電話相談室」恐竜発掘報告2022
12	HTB	10月8日	「錦鯉が行く！のりのり散歩」札幌・北区北大通り エリア#2
13	Tvh	11月6日	「ウオッチング札幌 NEXT100」
14	NHK ラジオ第一	11月20日	「こども科学電話相談室」
15	HBC	12月3日	「石ちゃんのビーフ天国」カフェぼらすローストビーフ丼
16	NHK Eテレ	12月14日	「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪 北海道大学総合博物館」
17	NHK Eテレ	12月20日	「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪 北海道大学総合博物館」
18	NHK ラジオ	12月28日	「冬休み！子ども科学電話相談」
19	NHK BS プレミアム	12月30日	「発掘ロストワールド 恐竜の聖地ゴビ砂漠」
20	NHK BS プレミアム	1月1日	「cool Japan～発掘！かっこいいニッポン～」
21	STV	2月3日	どさんこワイド179 中継『3年ぶり会場での開催 さっぽろ雪まつり』
22	NHK FM ラジオ	1月22日	「トーキング ウィズ 松尾堂」選 「恐竜国・日本に心躍らせる」
23	NHK BS プレミアム	1月27日	『発掘！キャンパス・ミュージアム北海道大学の巻 「北の勇者と宝探し！」』
24	NHK ラジオ第一	1月29日	「こども科学電話相談室」
25	TBS	2月7日	「マツコの知らない世界」
26	NHK World JAPAN	3月2日	Japanology Plus
27	テレビ東京	3月8日	日経スペシャル「60秒で学べるニュース」
28	NHK ラジオ第一	3月12日	「こども科学電話相談室」
29	日本テレビ	3月19日	「超無敵クラス」 放課後は別の顔
30	NHK	3月21日	「恐竜超世界2」前編
31	NHK	3月26日	「恐竜超世界2」後編

## VIII. 令和4年度予算状況

### ・運営費交付金

単位：千円

区 分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
当初配分予算額	43,386	44,990	43,302	44,811	41,458

### ・外部資金受入状況等

【科学研究費採択状況】 単位：千円

【科学研究費分担金一覧

(他機関から受領する分)】 単位：千円

年 度	件数	金 額
2018年度	8件	11,132
2019年度	9件	10,396
2020年度	11件	25,305
2021年度	11件	18,850
2022年度	4件	6,500

年 度	件数	金 額
2018年度	11件	3,080
2019年度	12件	2,674
2020年度	11件	4,173
2021年度	14件	17,337
2022年度	10件	5,707

【受託研究受入状況】

単位：千円

年度	件 名	相手方	金 額
2018~2022年度	なし		0

【奨学寄付金委任経理金の受入状況】

単位：千円

年 度	件 数	金 額
2018年度	5件	2,850
2019年度	4件	3,582
2020年度	0件	0
2021年度	0件	0
2022年度	0件	0

【総合博物館支援基金】

単位：千円

受入年度	受入金額
2018年度	825,332
2019年度	732,912
2020年度	335,423
2021年度	318,723
2022年度	614,688

## IX. 令和4年度の主な出来事

- 4月 1日 博物館担当主任 山田久恵さん着任
- 4月 1日 事務補助員 木谷恵さん着任
- 4月16日 山本純一写真展「カムイの大地」開催(～5/25)
- 7月22日 カルチャーナイト2022 星空とチェンバロの夕べ開催
- 7月30日 夏季企画展「感じる数学 Tangible Math ～ガリレイからポアンカレまで～」(～9/25)
- 8月17日 日本学術会議ご一行(26名)モデルバーン見学
- 9月17日 4Dシアター「Nociw kur ka maknatara (星影冴かに光れる北を)  
-アイヌの物語にみる星たち-」リバイバル公演
- 9月21日 駐日ドイツ大使ご一行(4名)モデルバーン見学
- 10月 8日 第3回「建築の学生展」開催(～10/8)
- 10月22日 4Dシアター「人に話したくなる宇宙の旅」開催
- 11月 5日 4Dシアター「人に話したくなる宇宙の旅」開催
- 11月29日 「小さなちいさな哺乳類 トガリネズミ展 一骨まで見せます!」(～12/25)
- 12月15日 在札幌アメリカ合衆国総領事ご一行(4名)博物館見学
- 1月 9日 クラーク博士の玄孫ご家族(4名)博物館、モデルバーンご来訪
- 1月31日 横浜国立大学総務企画部ご一行(4名)博物館見学
- 2月 8日 沖縄美ら海水族館ご一行(8名)博物館見学
- 2月14日 タイ・ラジャパンガラ工科大学ご一行(9名)博物館見学
- 2月19日 韓国・忠南大学校ご一行(6名)博物館見学
- 2月24日 駐日デンマーク王国大使ご一行(3名)モデルバーン見学
- 3月 4日 2022年度卒論ポスター発表会(～3/5)
- 3月 4日 4Dシアター『陰陽師が見たかも知れない星ぼし』開催
- 3月 7日 JAXAご一行(15名)博物館見学
- 3月 7日 茨城大学ご一行(4名)博物館見学
- 3月10日 三井業際研究所ご一行(22名)博物館見学
- 3月15日 文部科学省高等局専門教育課木谷課長補佐 博物館見学
- 3月17日 文部科学省ご一行(7名)博物館見学
- 3月31日 小澤丈夫館長退任
- 3月31日 研究支援推進員 渡邊洋子さん退職

## X. 総合博物館の第4期（令和4～9年度）中期目標

中期目標

### <基本的な理念と目標>

博物館独自の目標：『博物館の使命・目的・コンセプト』として、以下の4つを掲げている。1) 学術標本の保管・整理、次世代への継承と情報の提供、2) 学術資料を用いた学際的研究分野の開拓、3) 展示・セミナー等を通じた教育普及活動、4) 博物館文化の創造と発信。

大学の方針に沿った目標：総合博物館には、開学以来収集されてきた国内屈指の質・量をもつ学術標本・資料群が散逸せずに保管されている。一方、函館の総合博物館分館水産科学館や北方生物圏フィールド科学センター植物園博物館、同苫小牧研究林森林資料館等、貴重な学術標本・資料を保管する本学の施設は道内に散在している。学術標本・資料は、教育・研究の成果を明らかにするとともに、適切に分類・整理・登録し、組織的に保管・管理を行うことにより、次なる教育・研究を支援するための貴重な財産となる。これまで、総長裁量経費や科学研究補補助金によりデータベース化を進めてきているものの、データベースの8点は日進月歩であり、例えば現在盛んに利用され始めている画像による検索等ができるものではない。

本学の第4期中期計画には、学術情報基盤を整備と研究データのアーカイブが盛り込まれている。現在デジタル化されていない学術標本・資料を含めてDX化し、全学に散在する学術標本・資料をオンラインで活用できるようにすることが研究力強化のために必要と考えられる。

分館水産科学館の展示施設の主要部は、施設老朽化のため閉館状態となっている。分館施設における諸活動の全面再開に向け、改築を目指す。

### <教育に関する目標>

総合博物館では、展示制作と解説、グッズ開発、ポスター発表会などのプロジェクトの運営など、さまざまな学生教育を行ってきた。総合博物館独自の教育プログラムである、ミュージアムマイスター認定コースとパラタクソノミスト養成講座を継続し、多彩かつ多次元に本学の院生や学生の質の向上に努める。卒論ポスター発表会を開催し、新規にSDGs賞を設ける。また、総合博物館独自の全学教育科目や大学院共通科目の提供と、学芸員関連科目および博物館実習を継続し、引き続き本学の教育に貢献する。各教員は、他部局を兼務する形でそれぞれの専門分野の講義を担当し、院生・学生の研究を指導している。今後もこれからの教育活動を継続し、各分野の研究レベル向上に貢献する。

中期計画は以下の通りである。

- ・ミュージアムマイスター認定コースのマイスター認定：年2名以上
- ・卒論ポスター発表会の開催：年1回（SDGs賞を新規創設）
- ・パラタクソノミスト養成講座の開催：年間3回以上
- ・全学教育・大学院共通授業、学芸員関連科目と博物館実習の担当
- ・兼担する他部局の院生や学生の研究指導

### <研究に関する目標>

総合博物館には、300万点を越える国内屈指の学術標本・資料群がある。これらの学術標本・資料を利用した研究促進のために、標本・資料の収集と整理を行う。また、研究力強化のために、総合博物館所蔵の学術標本・資料のDX化を進める。博物館標本・資料を用いた研究を推進し研究を論文として出版する。さらに、資料部研究員の研究の活性化を促す。これらの研究成果を積極的に発信し、総合博物館の研究活動の高さを伝える。

中期計画は以下の通りである。

- ・学術標本・資料利用点数：年100点以上
- ・新規登録学術標本・資料点数：年1,000点以上
- ・学術標本・資料のDX化
- ・標本を利用した論文出版：年10本以上
- ・査読付き論文出版：年10本以上
- ・資料部研究員による年次報告会での発表：2題以上
- ・プレスリリースの発信：年2回以上
- ・博物館ニュースの出版：年2回

### <社会貢献に関する目標>

近年、総合博物館の入館者数は国内大学博物館でトップクラスの数で、札幌市の観光施設で15位前後に位置している。常設展示では、本学の最新の教育・研究の成果を常に示すよう努めており、これは本学としても特質すべき社会貢献と言える。今後も、常設展示の運用、企画展示の開催、セミナーやイベントの開催などの博物館活動を継続し、本学の最新の教育・研究成果を発信する。また、新規の計画として本学全体の指針であるSDGsへの取り組みや本学発ベンチャー企業の支援などのための情報発信も担う。さらに、展示のDX化を図る。当館の活動は200人を超えるボランティアに支えられており、同時に生涯学習の場を提供している。今後もこの日本の博物館として最大規模のボランティア組織を円滑に維持・運営していく。

中期計画は以下の通りである。

- ・入館者数：年15万人以上
- ・夏季企画展の開催：年1回
- ・常設展示の維持・発展：デジタルサイネージを毎年更新
- ・常設展示において北大が取り組んでいるSDGsの研究や教育を紹介
- ・北大発ベンチャー企業の取組みの展示を開始
- ・展示のDX化
- ・土曜市民セミナーやその他のイベントの開催：年15回
- ・ボランティア：登録者数を200人維持し運営
- ・年次報告会の開催：年1回
- ・HPやfacebookを随時更新

- ・オープンキャンパス、ホームカミングデー、サステナビリティウィークへの協力
- ・大学博物館協議会・博物科学会の開催